

平成25年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

2015

印西市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成25年度に調査を実施した、印西市鳴神山遺跡・古井戸後遺跡・馬場遺跡（第8地点）・木戸場遺跡（第4地点）・大畑遺跡・打出第2遺跡（第2地点）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、印西市教育委員会生涯学習課が実施した。整理作業及び原稿執筆は、印西市より委託を受けた公益財団法人印旛郡市文化財センターが実施した。
3. 調査組織は以下の通りである。

発掘調査（平成25年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	山崎 剛	印西市教育委員会生涯学習課長
	小池康久	印西市教育委員会生涯学習課文化財班副主幹
	大野徳強	印西市教育委員会生涯学習課文化財班主査
	鈴木圭一	印西市教育委員会生涯学習課文化財班主査
	能勢幸枝	印西市教育委員会生涯学習課文化財班主査補
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化財班学芸員（調査担当者）

整理作業・原稿執筆（平成26年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	湯浅静夫	印西市教育委員会生涯学習課長
	小池康久	印西市教育委員会生涯学習課主幹
	鈴木圭一	印西市教育委員会生涯学習課文化財班主査
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化財班学芸員
整理担当者	齊藤 毅	公益財団法人印旛郡市文化財センター調査課長

4. 発掘調査を実施した遺跡は次の通りである。以下、（1）調査の種別・調査面積・調査期間、（2）調査に至る経緯について概要を記す。

○鳴神山遺跡（印西市戸神字天王647-6、647-7、645-2の一部）

- （1）確認調査・上層49㎡／353㎡・平成25年4月24日～4月25日
- （2）資材置き場建設に先立って埋蔵文化財発掘の届出が提出された。それにより、文化財の取り扱いについて協議を行い、遺跡の性格・内容を把握するために確認調査を実施した。

○古井戸後遺跡（印西市平賀字杉ノ木2369、2370の一部）

- （1）確認調査・上層75.2㎡／440.78㎡・平成25年5月16日
本調査・上層168.6㎡・平成25年5月20日～5月27日
- （2）個人住宅建設に先立って埋蔵文化財発掘の届出が提出された。文化財の取り扱いについて協議を行い、確認調査を実施した。その結果、影響範囲については本調査を実施し、堅穴住居跡5軒、土坑2基を調査、記録保存を行った。

○馬場遺跡（第8地点）（印西市小林字馬場2811-1の一部）

- （1）確認調査・上層44.1㎡／260.02㎡・平成25年6月20日
本調査・上層20㎡・平成25年7月9日～7月10日

- (2) 個人住宅建設に先立って埋蔵文化財発掘の届出が提出された。文化財の取り扱いについて協議を行い、確認調査を実施した。その結果、影響範囲については本調査を実施し、土坑1基及びピット14基を調査、記録保存を行った。
- 木戸場遺跡（第4地点）（印西市船穂字木戸場426-1の一部）
- (1) 確認調査・上層79.25㎡/300.01㎡・平成25年6月26日
- (2) 個人住宅建設に先立って埋蔵文化財発掘の届出が提出された。それにより、文化財の取り扱いについて協議を行い、遺跡の性格・内容を把握するために確認調査を実施した。
- 大畑遺跡（印西市瀬戸字法経堂1171、1174）
- (1) 確認調査・上層101.5㎡/997㎡・平成25年10月29日
- (2) メガソーラー設置工事に先立って埋蔵文化財発掘の届出が提出された。それにより、文化財の取り扱いについて協議を行い、遺跡の性格・内容を判断するために確認調査を実施した。
- 打出第2遺跡（第2地点）（印西市山田字東3286）
- (1) 確認調査・上層104㎡/453㎡・平成26年2月5日
- (2) メガソーラー設置工事に先立って埋蔵文化財発掘の届出が提出された。それにより、文化財の取り扱いについて協議を行い、遺跡の性格・内容を判断するために確認調査を実施した。
5. 本書に使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は有限会社スギハラに委託して撮影した。
6. 古井戸後遺跡、馬場遺跡（第8地点）の水準測量は、寺田測量設計株式会社に委託して実施した。
7. 出土遺物及び図面・写真は、印西市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査から報告書刊行まで、下記の機関のご指導・ご教示を賜った。（敬称略、順不同）
文化庁・千葉県教育庁教育振興部文化財課

凡 例

1. 遺構番号は、原則として発掘調査時の番号を踏襲し使用した。
2. 第1図は、国土地理院発行1/50,000『佐倉』、第2図は、国土地理院発行1/50,000『佐倉』、『成田』を合成し作成した。第3・4・9・15・16・17の各図は、印西市教育委員会より印西市発行1/2,500『印西市基本図』の提供を受け、原図として使用し作成した。
3. トレンチ配置図、及び遺構配置図、遺構図等に記載の各方位は磁北を表す。
4. 標高値は東京湾平均海水面を基準とする。
5. 遺構及び遺物実測図の縮尺は、下記のとおりである。
（遺構） 住居跡1/80、土坑1/60、ピット1/60
（遺物） 土器実測図1/4、土器断面図（拓影図）1/3、石器1/3、鉄製品1/3、土製品1/2及び1/3
なお、遺物写真は、実測図1/2縮尺の土製品を除き、概ね上記縮尺に準じている。
6. 遺構データ、遺物データ等の数値標記については、（ ）が推定値、〈 〉が現存値を示す。

本文目次

例言

凡例

第1章	遺跡の立地と周辺遺跡	1
第2章	鳴神山遺跡	3
第3章	古井戸後遺跡	4
第4章	馬場遺跡（第8地点）	11
第5章	木戸場遺跡（第4地点）	20
第6章	大畑遺跡	21
第7章	打出第2遺跡（第2地点）	23
第8章	まとめ	24

挿図目次

第1図	周辺遺跡(1)	2
第2図	周辺遺跡(2)	2
第3図	鳴神山遺跡周辺地形図、トレンチ配置図、出土遺物	3
第4図	古井戸後遺跡周辺地形図、トレンチ配置図、遺構配置図	4
第5図	古井戸後遺跡1号住居跡・出土遺物	7
第6図	古井戸後遺跡2号住居跡・出土遺物	8
第7図	古井戸後遺跡3号住居跡・出土遺物	9
第8図	古井戸後遺跡4号住居跡・出土遺物、5号住居跡、1号土坑・出土遺物	10
第9図	馬場遺跡（第8地点）周辺地形図、トレンチ配置図、遺構配置図・断面図	12
第10図	馬場遺跡（第8地点）出土遺物(1)	15
第11図	馬場遺跡（第8地点）出土遺物(2)	16
第12図	馬場遺跡（第8地点）出土遺物(3)	17
第13図	馬場遺跡（第8地点）出土遺物(4)	18
第14図	馬場遺跡（第8地点）出土遺物(5)	19
第15図	木戸場遺跡（第4地点）周辺地形図、トレンチ配置図	20
第16図	大畑遺跡周辺地形図、トレンチ配置図、出土遺物	21
第17図	大畑遺跡出土遺物	22
第18図	打出第2遺跡（第2地点）周辺地形図、トレンチ配置図、出土遺物	23

表目次

第1表	鳴神山遺跡（第2地点）遺物観察表	3	第4表	馬場遺跡（第8地点）遺物観察表	11
第2表	古井戸後遺跡遺物観察表	5	第5表	大畑遺跡遺物観察表	22
第3表	馬場遺跡（第8地点）遺構観察表	11	第6表	打出第2遺跡（第2地点）遺物観察表	23

写真図版目次

図版1

- 鳴神山遺跡（第2地点）1 T、1 T-2、2 T、3 T、調査風景、調査区遠景
- 古井戸後遺跡 1 T、2 T、3 T、4 T、5 T、6 T、7 T、遺構検出状況、1住セクション、1住完掘、2住セクション、2住カマドセクション、

図版2

- 古井戸後遺跡 2住カマド、2住完掘、3住セクション、3住カマドセクション、3住完掘、4住セクション、4住遺物出土状況、4住完掘、5住セクション、5住完掘、調査風景、調査区遠景
- 馬場遺跡（第8地点）1 T、2 T、3 T、4 T、5 T、6 T

図版3

- 馬場遺跡（第8地点）遺構検出状況、P1・2、P3・4、P5、P6、P7、P8、P9、P10、P11・12、P13、調査区全景
- 木戸場遺跡（第4地点）1 T、2 T、3 T、4 T、5 T、6 T

図版4

- 大畑遺跡 2 T、3 T、4 T、5 T、6 T、7 T、8 T、9 T、10 T
- 打出第2遺跡（第2地点）1 T、2 T、3 T、4 T、5 T、6 T、7 T、8 T、調査区遠景

図版5

- 鳴神山遺跡（第2地点）出土遺物、
- 古井戸後遺跡出土遺物（1住・2住）

図版6

- 古井戸後遺跡出土遺物（3住・4住・1土）②

図版7

- 馬場遺跡（第8地点）出土遺物（1土、P1～9）①

図版8

- 馬場遺跡（第8地点）出土遺物（P10、11、13、14、遺構外①）

図版9

- 馬場遺跡（第8地点）出土遺物（遺構外②）

図版10

- 馬場遺跡（第8地点）出土遺物（遺構外③）
- 大畑遺跡出土遺物
- 打出第2遺跡（第2地点）出土遺物

第1章 遺跡の立地と周辺遺跡

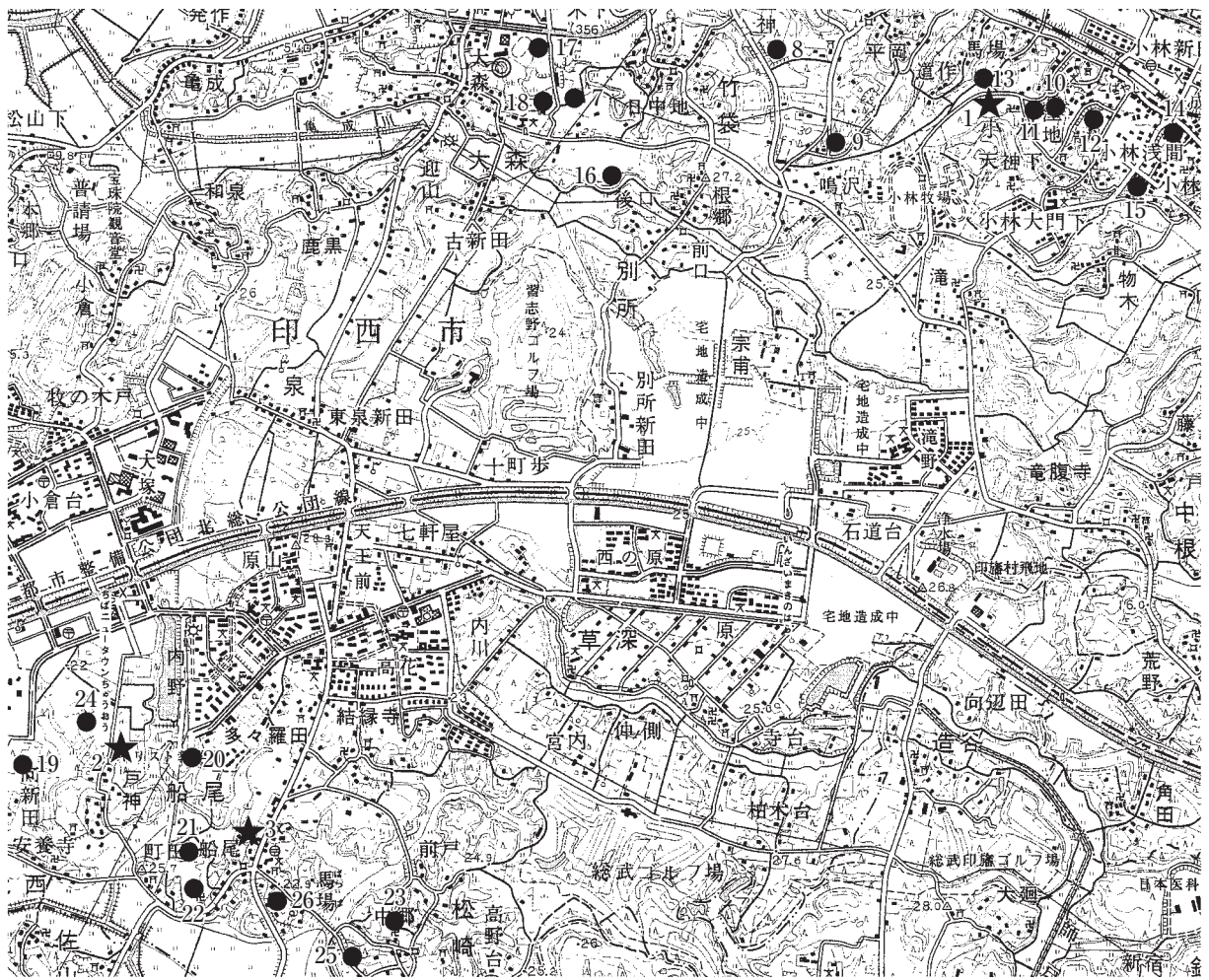
印西市は東京都心部から約40km圏内、千葉県北部に位置する。市域の周囲は、西側で白井市、柏市、我孫子市、南側で佐倉市、酒々井町、八千代市、東側で成田市、栄町と境界を接し、北側では、茨城県との県境である利根川に面している。平成22年3月には、隣接する印旛村、本埜村との合併が成立し、市域面積123.8km²を測る印旛郡市域の北西部の一角を占める新しい街となった。市域では市街地化が急速に進むニュータウン地区の他、近世からの街並みが残る地区、また、豊かな里山風景が広がる地区など様々な様相をみせている。市域南東側には印旛沼、北西側には手賀沼が所在し、県域の北部に広がる下総台地を中心として、利根川の沖積地、さらには印旛沼、手賀沼流域の中小河川による複雑に刻まれた谷津部分から形成される地形となる。

平成25年度の市内遺跡発掘調査では、合計6遺跡の調査を実施した。これらの遺跡は、市域北側の利根川南岸部分の小林地区では馬場遺跡（第8地点）（1）が、市域西側の千葉ニュータウン中央駅南側の戸神地区では鳴神山遺跡（第2地点）（2）、船穂地区では木戸場遺跡（第4地点）（3）が、市域の東側、旧印旛村域の北印旛沼と西印旛沼に挟まれた台地上、瀬戸地区では大畑遺跡（4）、山田地区では打出第2遺跡（第2地点）（5）、平賀地区では古井戸後遺跡（6）がそれぞれ調査され、その分布は水系などから大きく3つの区域に分かれる。分布が広範なため、遺跡分布図は便宜的に2分割して作成した（第1図、第2図）が、6ヶ所の調査遺跡の他、その調査成果に関連する周辺遺跡の分布を示した。

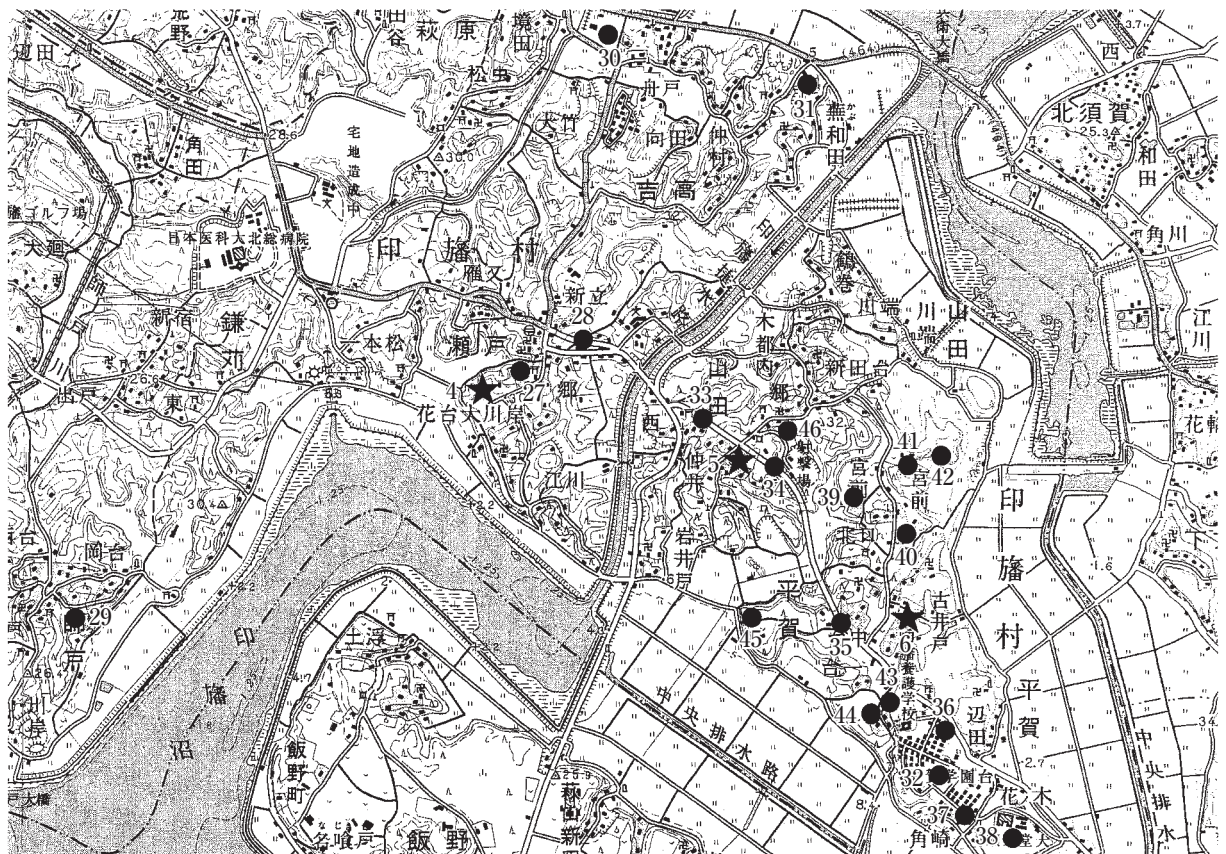
馬場遺跡（1）は、利根川に流入する将監川の南岸に位置する、縄文時代後期・晩期、古墳時代、さらに奈良・平安時代から中世に至る複合遺跡である。とくに縄文時代後期・晩期の拠点集落として注目され、今回は第8地点として調査が実施された。利根川と南西側の手賀沼に流入する亀成川に挟まれた東西にのびる台地上には、多数の遺跡の分布が周知され、これまでに調査が実施された遺跡も多い。縄文時代後期・晩期の遺跡では、天神台遺跡（7）、川崎遺跡（8）、馬込遺跡（9）、駒形北遺跡（10）、駒形西遺跡（11）などが所在し、このうち天神台遺跡、駒形北遺跡、馬込遺跡では、古墳時代、奈良・平安時代の集落も確認される。古墳時代、奈良・平安時代を主体とする遺跡としては、天神前遺跡（12）が、また古墳群では、道作古墳群（13）、浅間山古墳群（14）、小林古墳群（15）などが分布する。さらに、木下別所廃寺跡（16）、曾谷ノ窪遺跡（17）、曾谷ノ窪瓦窯（18）などは、奈良・平安時代を主体とする遺跡である。

市域の西側、神崎川、新川水系流域に位置する、鳴神山遺跡（2）、木戸場遺跡（3）は、古墳時代、奈良・平安時代を主体とする遺跡である。とくに鳴神山遺跡では、これまでの調査から船穂郷の中心集落として推定できる豊富な調査成果が得られている。また周辺には、向新田遺跡（19）、船尾白幡遺跡（20）、船尾町田遺跡（21）、向ノ地塚遺跡（22）、中郷遺跡（23）、白井谷奥遺跡（24）、前戸遺跡（25）、油免遺跡（26）など、古墳時代、奈良・平安時代を主体とする遺跡が多数所在する。

旧印旛村域にあたる、大畑遺跡（4）、打出第2遺跡（5）、古井戸後遺跡（6）の周辺地域では、平賀地区の宅地造成、あるいは、道路新設工事などの大規模事業の実施に伴い、調査事例の多い区域である。縄文時代後期を主体とする遺跡では、宮作遺跡（27）、新山遺跡（28）、戸ノ内遺跡（29）、吉高一本松遺跡（30）などが所在する。古墳時代及び奈良・平安時代の遺跡では、吉高山王遺跡（31）、駒込遺跡（32）、山田諏訪遺跡（33）、山田虎ノ作遺跡（34）、平賀惣行遺跡（35）、油作第2遺跡（36）、仲ノ台遺跡（37）、一ノ台遺跡（38）、中峠遺跡（39）、前原遺跡（40）、天神遺跡（41）、細町遺跡（42）、油作第2遺跡（43）など多くの遺跡の分布が認められる。また、大規模な古墳群としては、古井戸原古墳群（44）、勧堂古墳群（45）、光明寺古墳群（46）などが所在し、その他、周辺には記載外の古墳の分布も多い。



第1図 周辺遺跡(1)



第2図 周辺遺跡(2)

第2章 鳴神山遺跡 (第3図、図版1・5)

第1節 調査の概要

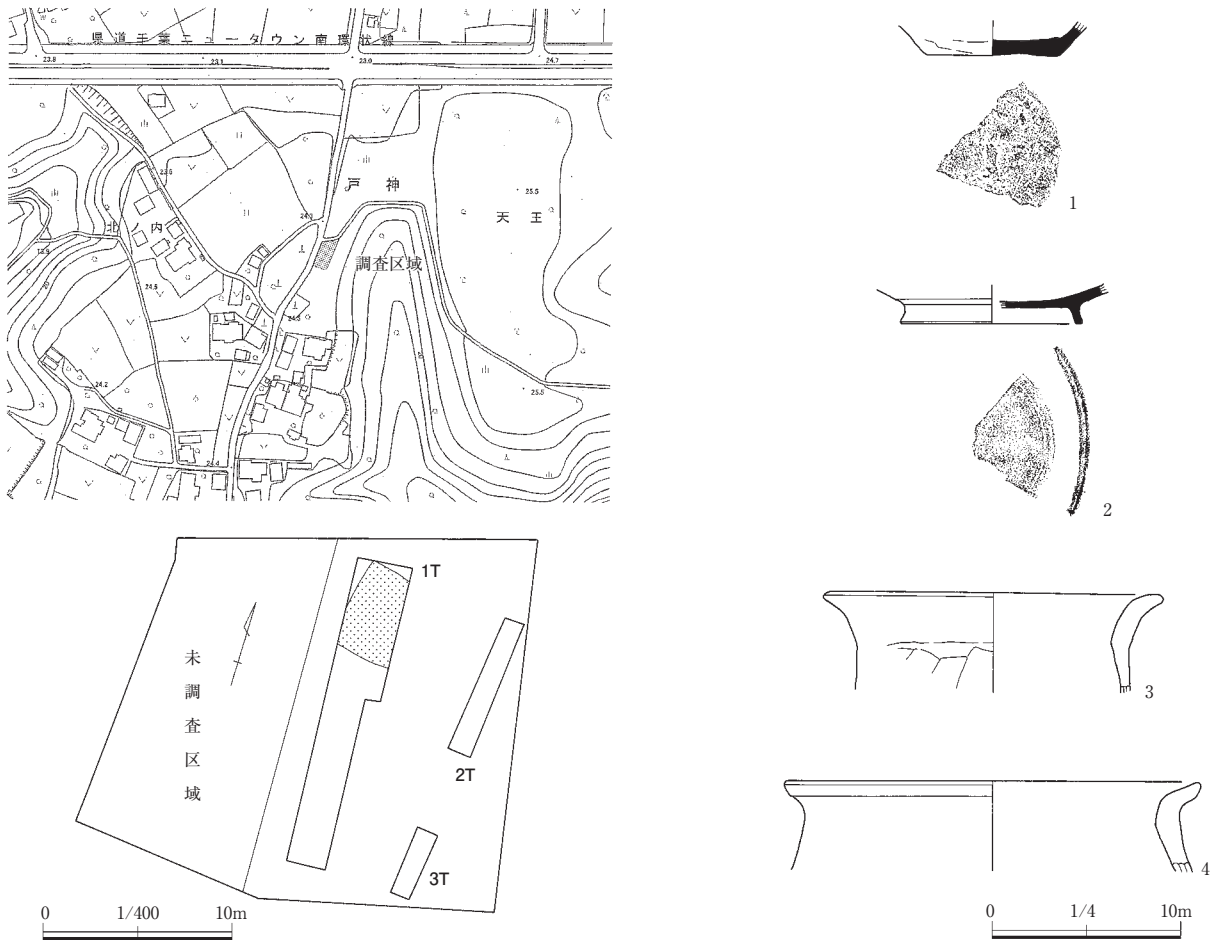
鳴神山遺跡は、神崎川の北側1.0km程に位置する標高22~24mの台地上に立地する。調査区域は広範な遺跡範囲の南寄りに位置し、東側では遺跡境界に接する。谷津に向かっては緩やかな斜面地形を呈する。調査対象面積は353㎡、調査区地形に従って、調査の可能な東側区域を中心に3ヶ所のトレンチを設定し49㎡の部分について確認調査を実施した。

第2節 調査の成果

確認調査の結果、1トレンチの北側から、竪穴住居跡1軒が検出された。平面形態は方形と推定され、南北軸で約4.8mを測る。出土遺物は土師器、須恵器などが認められ、そのうち4点を図示した。

第1表 鳴神山遺跡遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
1	須恵器 坏	—	(1.8)	(7.0)	口クロ整形。体部下端~底部手持ちヘラケズリ。	良	灰色	石英・長石粒子多量	底部1/4残存
	須恵器 高台付坏	—	(2.1)	台部 (9.6)					
3	土師器 甕	(18.0)	(5.3)	—	口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	良	褐色	石英・長石粒子微量	口縁部片
	土師器 甕	(22.0)	(4.7)	—					



第3図 鳴神山遺跡周辺地形図、トレンチ配置図、出土遺物

第3章 古井戸後遺跡 (第4～8図、図版1・2・5・6)

第1節 調査の概要

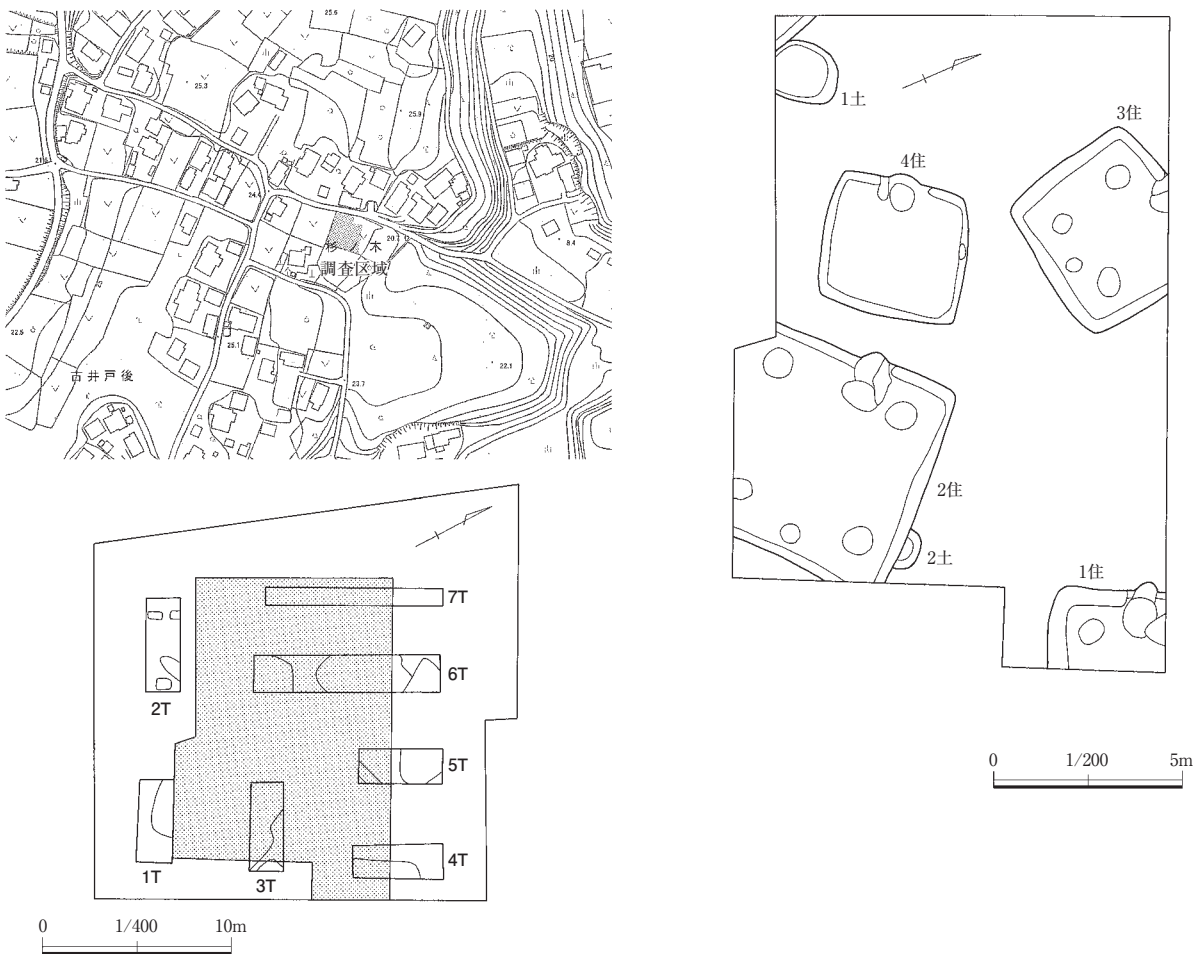
古井戸後遺跡は、北印旛沼と西印旛沼に挟まれた東南方向へ広がる広大な台地上に位置する。印旛沼捷水路の西岸からは1.0km程の内陸部にあたり、標高は23mを測る。調査区域は遺跡範囲の北東部に位置し、北側では遺跡境界に接する。調査は440.78㎡を対象範囲に、調査区の形状に従って合計7本のトレンチを設定、75.2㎡の部分について確認調査を実施した。その結果、北西側を除く6ヶ所のトレンチから、古墳時代後期、及び奈良・平安時代に推定される竪穴住居跡9軒、土坑1基などが検出された。これを受け、調査対象区域の中央部分を中心とする影響範囲168.6㎡について本調査を実施し、竪穴住居跡及び土坑を調査した。

第2節 調査の成果

本調査では、狭小な調査範囲であったが、合計5軒の竪穴住居跡と2基の土坑が検出された。遺物は古墳時代後期及び奈良・平安時代の土師器、須恵器、土製品、鉄製品などが出土した。

(1号住) (第5図)

位置 調査区東端部、遺構の北東、東南部は区域外となる。**形態** 方形か。**規模** (3.10)m×(2.14)m、深さ0.41m。**主軸** N-53°-W。**カマド** 西壁、袖は残存しない。**柱穴** P1 深さ0.42m。**貯蔵穴** なし。**周溝** カマド周辺部を除き残存する。



第4図 古井戸後遺跡周辺地形図、トレンチ配置図、遺構配置図

(2号住) (第6図)

位置 調査区南東端部、遺構の南西部、東部隅は区域外となる。2号土坑と重複する。形態 方形か。

規模 6.05m×〈6.00〉m、深さ0.39m。主軸 N-37°-W。カマド 北西壁中央から北東側に大きく片寄る。片袖のみ残存する。柱穴 P1 深さ0.59m、P2 深さ0.52m、P3 深さ0.24m、P4 深さ0.48m、P5 深さ0.40m。貯蔵穴 なし。周溝 カマド部分を除き全周するか。

(3号住) (第7図)

位置 調査区北寄り、遺構北東隅は区域外となる。形態 方形か。規模 4.50m×4.18m、深さ0.34m。

主軸 N-10°-W。カマド 北壁、片袖は区域外となる。柱穴 P1 深さ0.80m、P2 深さ0.56m。貯蔵穴 なし。周溝 カマド周辺部を除き残存する。全周するか。

(4号住) (第8図)

位置 調査区中央西寄り。形態 不整形。規模 3.90m×3.60m、深さ0.61m。主軸 N-54°-W。

カマド 西壁中央、片袖のみ残存。柱穴 なし。貯蔵穴 なし。周溝 カマド周辺部を除き残存する。周溝内に小ピット(深さ0.37m)あり。

(5号住) (第8図)

位置 調査区西端部、遺構の殆どは区域外となる。形態 方形か。規模 -、深さ0.38m。主軸、カマド、柱穴、貯蔵穴は不明。周溝 調査部分残存する。

(1号土坑) (第8図)

調査区西端部、5号住の東側と重複する。南側は区域外となる。平面形態は楕円形と思われ、〈1.86m〉×1.54m、深さ0.32mを測る。主軸はN-50°-Eを示す。

(2号土坑) (第6図)

調査区東端部、南側で2号住と重複する。平面形態は円形か。1.10m×〈0.52m〉、深さ0.24mを測る。

第2表 古井戸後遺跡遺物観察表

1号住居跡

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
1	須恵器 坏	(13.0)	3.5	(8.0)	ロク口整形。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。	良	灰褐色	石英・長石粒子・雲母多量、黒色粒子少量	図示部分1/4残存
2	須恵器 坏	(14.0)	〈2.8〉	-	ロク口整形。	良	灰色	石英・長石粒子・雲母多量	口縁部1/4残存
3	須恵器 坏	-	〈1.5〉	(8.6)	ロク口整形。体部下端～底部回転ヘラケズリ。	良	灰褐色	黒色粒子・石英・長石粒子少量	底部1/4残存
4	須恵器 甕	-	〈19.0〉	20.0	胴部外面斜位平行タタキ、下端横位ヘラケズリ。内面ヘラナデ、当具痕一部残る。	良	灰褐色	黒色粒子・石英・長石粒子・雲母少量	図示部分1/2残存
5	須恵器 甕	(25.8)	〈6.2〉	-	内外面横ナデ。頸部外面は平行タタキ痕僅かに残る。内面輪積痕。	良	灰褐色	石英・長石粒子多量	口縁部片。東海系か。
6	土師器 甕	-	〈5.1〉	8.4	胴部外面棒状工具による縦位ミガキ、内面ヘラナデ。底部木葉痕。	良	(外)褐色 (内)暗黄褐色	赤色粒子・石英・長石粒子・雲母多量	胴部下方～底部。外面煤付着、器面磨滅する。
7	土師器 小型甕	-	〈3.5〉	(9.0)	胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	良	(外)明褐色 (内)暗褐色	石英・長石粒子多量、赤色粒子少量	底部片。2次焼成。
8	鉄製品	最大長6.4cm×最大幅2.5cm×最大厚0.2cm。重量13.1g。刀子か。							
9	石製品	最大長12.8cm×最大幅7.1cm×最大厚4.2cm。重量517.5g。							

2号住居跡

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
1	須恵器 蓋	-	〈2.0〉	摘み部 3.9	ロク口整形。	良	黄褐色	石英・長石粒子・雲母多量	摘み部片。内外面磨滅顕著。
2	須恵器 坏	(15.0)	4.2	7.0	ロク口整形。底部回転ヘラケズリ。	良	灰色	石英・長石粒子・雲母多量	図示部分1/2残存。底部外面刻書。
3	須恵器 坏	(13.6)	〈3.6〉	-	ロク口整形。	やや不良	灰褐色	石英・長石粒子多量	口縁～体部片
4	須恵器 坏	(16.0)	〈2.7〉	-	ロク口整形。	良	灰色	雲母多量、石英・長石粒子少量	口縁部片

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
5	須恵器 坏	(14.0)	3.6	(6.4)	ロク口整形。	良	青灰色	石英・長石粒子多量	図示部分1/6残存
6	土師器 坏	13.3	4.2	—	外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	良	橙色	赤色粒子・石英・長石粒子少量	図示部分2/3残存
7	土師器 坏	(18.0)	(3.1)	—	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	良	橙色	赤色粒子、石英・長石粒子微量	図示部分1/4残存
8	土師器 坏	(14.0)	(3.7)	—	口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	良	褐色	赤色粒子・石英・長石粒子少量	口縁部片
9	土師器 高坏	—	(7.3)	—	外面ヘラケズリ後ナデ、坏部内面ヘラナデ。	良	橙褐色	石英・長石粒子微量	坏部下方～脚部上方残存
10	土師器 甗	—	(3.4)	9.0	胴部外面縦位ヘラミガキ、内面ヘラナデ後ナデ。	良	赤褐色	石英・長石粒子・雲母多量、赤色粒子少量	図示部分1/2残存。2次焼成により器面剥落。
11	土師器 甗	(25.6)	(6.8)	—	外面ナデ、内面ヘラナデ後ナデ。	良	橙褐色	石英・長石粒子・雲母多量	口縁部1/4残存
12	土師器 甗	(25.6)	(4.5)	—	内外面ナデ。	良	橙褐色	石英・長石粒子・雲母多量、赤色粒子少量	口縁部1/4残存
13	土製支脚	最大長8.1cm×最大幅8.6cm×最大厚6.5cm。重量261g。							
14	土玉	最大長2.1cm×最大幅2.0cm×最大厚2.1cm。重量8.5g。							

3号住居跡

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
1	須恵器 蓋	—	(2.3)	摘み部 3.8	ロク口整形。天井部外面回転ヘラケズリ。	良	灰オリブ色	白色粒子多量、石英・長石粒子少量	図示部分残存
2	須恵器 蓋	(14.9)	(2.7)	—	ロク口整形。天井部外面回転ヘラケズリ。	良	黄褐色	白色粒子・石英・長石多量	図示部分1/4残存
3	須恵器 蓋	(15.1)	(2.0)	—	ロク口整形。	良	黄灰色	石英・長石粒子多量、白色粒子少量	図示部分1/4残存
4	須恵器 蓋	(16.0)	(2.2)	—	ロク口整形。	良	黄灰色	白色粒子・石英・長石粒子少量	口縁部片
5	須恵器 蓋	(14.5)	(1.7)	—	ロク口整形。	良	黄灰色	白色粒子多量、石英・長石粒子少量	口縁部片
6	須恵器 坏	(14.2)	4.2	—	ロク口整形。底部回転ヘラケズリ。	良	灰黄褐色	白色粒子多量、石英・長石粒子少量	図示部分2/3残存
7	須恵器 坏	(13.6)	(4.0)	(7.4)	ロク口整形。底部周縁回転ヘラケズリ。	良	黄灰色	白色粒子・石英・長石粒子多量	図示部分1/4残存
8	須恵器 坏	(15.2)	(3.5)	—	ロク口整形。底部周縁回転ヘラケズリ。	良	(外)黒褐色 (内)黄灰色	石英・長石粒子多量	図示部分1/4残存
9	土師器 甗	(16.5)	(12.1)	—	口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ後ヘラナデ、内面ヘラナデ。	良	褐色	白色粒子・石英・長石粒子多量	口縁部～胴部上半1/4残存
10	土師器 甗	(16.0)	(10.2)	—	口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	良	橙褐色	白色粒子・石英・長石粒子少量	口縁部～胴部上半1/3残存
11	土師器 甗	(15.6)	(4.9)	—	口縁部ヨコナデ。	良	明赤褐色	石英・長石粒子多量、白色粒子少量	口縁部片
12	土師器 甗	(22.8)	(4.8)	—	口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	やや不良	褐色～黒褐色	石英・長石粒子多量、白色粒子少量	口縁部片
13	土師器 甗	—	(7.1)	(7.6)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ後ヘラミガキ。	良	(外)褐色～黒褐色 (内)赤褐色	白色粒子・石英・長石粒子多量	底部～胴部下方片
14	土師器 甗	—	(4.5)	9.0	外面ヘラケズリ後棒状のミガキ、内面ヘラナデ。	良	明赤褐色	石英・長石粒子多量、白色粒子・黒色粒子少量	底部片
15	鉄製鎌	最大長15.0cm×最大幅3.5cm×最大厚0.4cm。重量39.2g。							
16	土玉	最大長1.8cm×最大幅2.2cm×最大厚2.1cm。重量6.6g。							

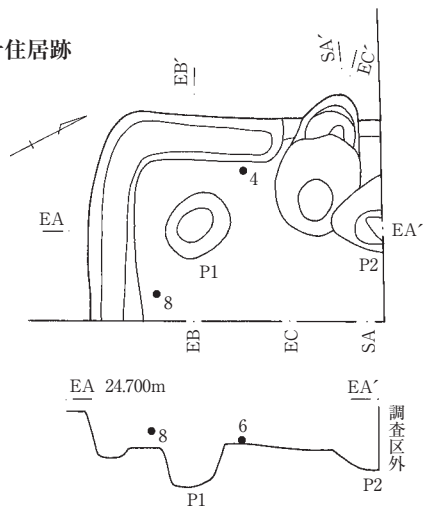
4号住居跡

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
1	須恵器 蓋	(11.4)	(2.0)	—	ロク口整形。	良	灰褐色	石英・長石粒子少量	口縁部片
2	土師器 坏	15.4	3.8	—	外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ヘラミガキ。	良	橙色	赤色粒子多量、石英・長石・雲母少量、白色針状物量	完形
3	須恵器 甗	—	(5.5)	—	胴部外面斜位平行タタキ、内面当具痕。	良	灰色	黒色粒子少量	胴部片
4	土師器 甗	(23.6)	31.5	(9.2)	口縁部ヨコナデ、胴部外面上方ナデ、下方棒状工具による縦位ヘラミガキ、内面ヘラナデ、底部木葉痕。	良	黄褐色	赤色粒子・石英・長石粒子・雲母多量	図示1/2残存
5	土師器 甗	(24.0)	(9.8)	—	口縁部ヨコナデ、胴部外面ナデ、内面ヘラナデ。	良	黄褐色	赤色粒子・石英・長石粒子・雲母多量	図示1/3残存
6	土師器 甗	(12.8)	(10.5)	—	口縁部ヨコナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	良	褐色	赤色粒子・石英・長石粒子多量、白色針状物微量	図示1/4残存
7	土師器 甗	—	(1.5)	8.4	胴部下端横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ、底部木葉痕。	良	暗黄褐色	赤色粒子・石英・長石・雲母多量	底部1/2残存
8	土玉	最大長2.5cm×最大幅2.5cm×最大厚2.2cm。重量1.6g。							
9	石製品	最大長9.0cm×最大幅7.4cm×最大厚3.2cm。重量311.7g。							

1号土坑

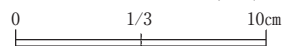
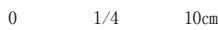
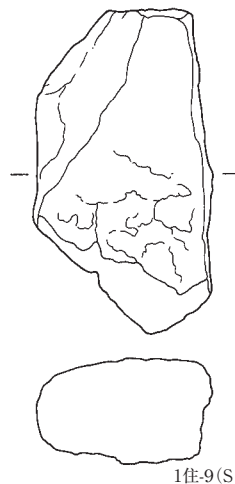
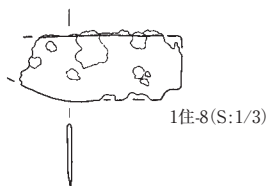
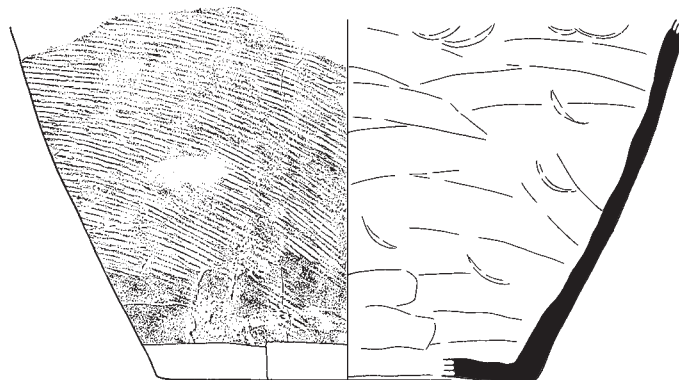
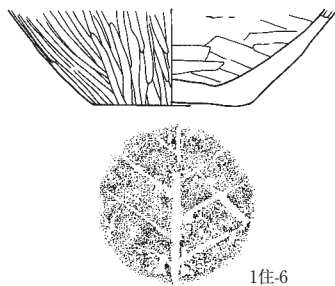
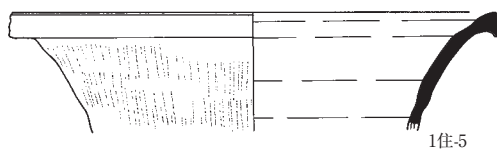
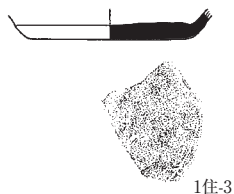
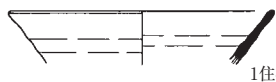
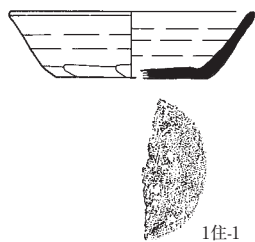
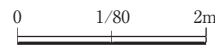
No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
1	土師器 坏	(12.0)	(3.5)	—	ロク口整形。体部下端手持ち。	良	明褐色	赤色粒子・石英・長石粒子・雲母多量	図示1/4残存
2	土師器 甗	(21.4)	(6.6)	—	ロク口整形。胴部外面格子状タタキ後縦位ヘラケズリ。	良	橙褐色	赤色粒子多量、石英・長石少量	図示1/6残存
3	土師器 甗	(22.4)	(5.0)	—	口縁部ヨコナデ、胴部外面横位ヘラケズリ。	良	褐色	赤色粒子少量	図示1/6残存

1号住居跡



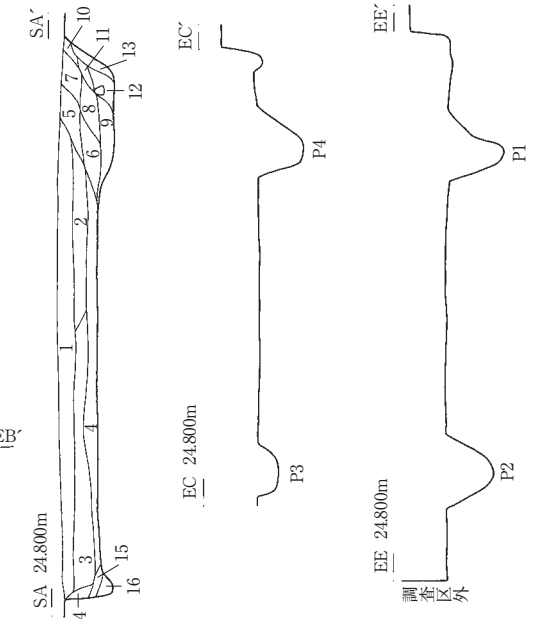
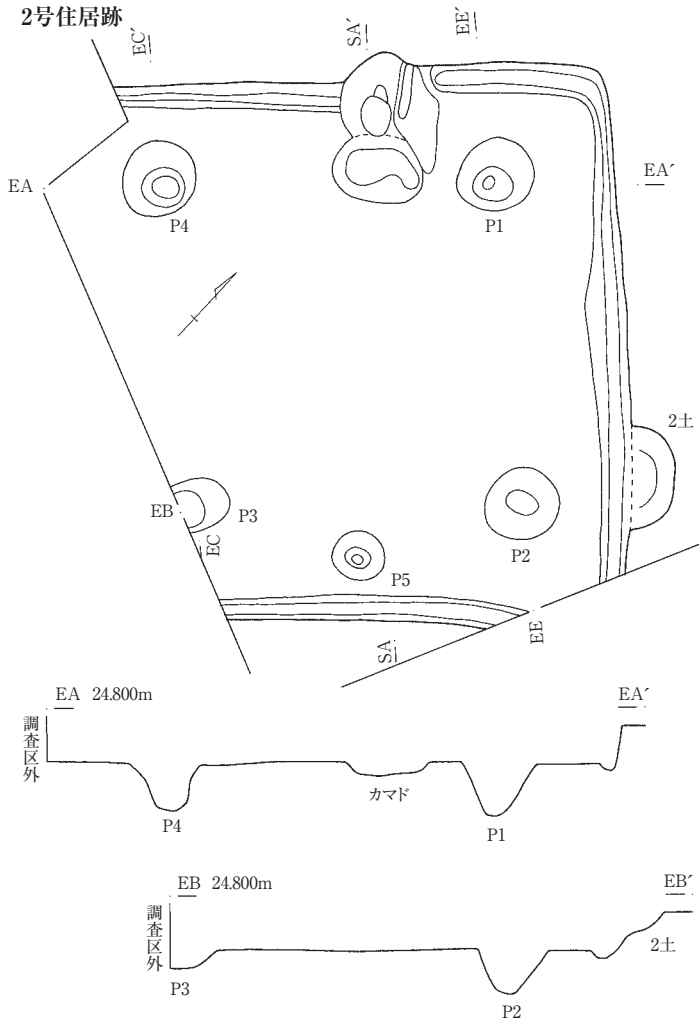
1号住

- | | |
|-----------|--------------------------------------|
| 1層 暗褐色土層 | ローム粒、ロームブロック(φ5mm)、焼土少、炭化物、粘土粒微量含む |
| 2層 黒褐色土層 | ローム粒、焼土、炭化物、粘土粒少量含む、締まりあり |
| 3層 暗褐色土層 | ローム粒、ロームブロック、焼土少、山砂、炭化物微量含む、締まり、粘性あり |
| 4層 暗赤褐色土層 | 焼土多、山砂、炭化物少量含む、締まりあり、粘性なし |
| 5層 褐色土層 | ローム粒、山砂、炭化物少、焼土含む、締まりあり、粘性なし |
| 6層 暗褐色土層 | 焼土、炭化物少量含む |
| 7層 黒褐色土層 | 山砂多、焼土、炭化物、ローム粒含む、締まり、粘性あり |
| 8層 暗褐色土層 | 山砂多、焼土含む、火床面 |
| 9層 暗褐色土層 | ローム粒、焼土少量含む、粘性なし |



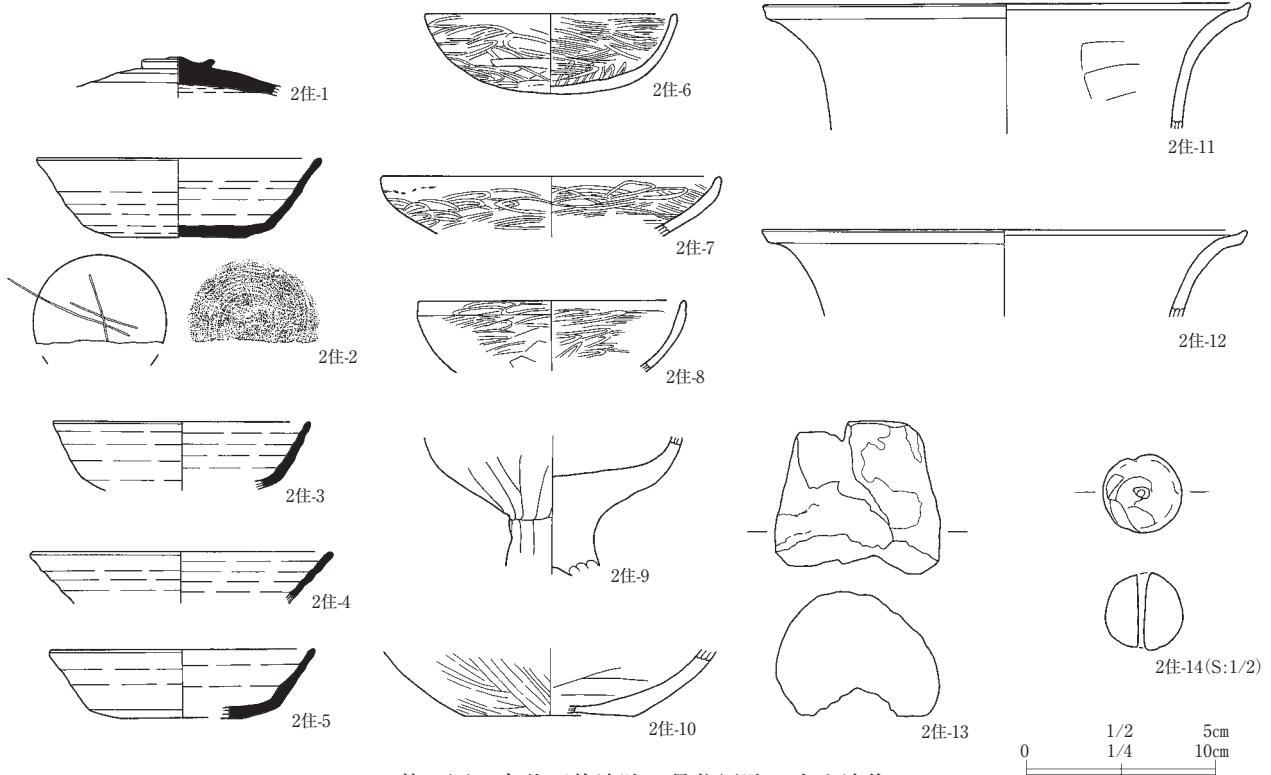
第5図 古井戸後遺跡1号住居跡・出土遺物

2号住居跡



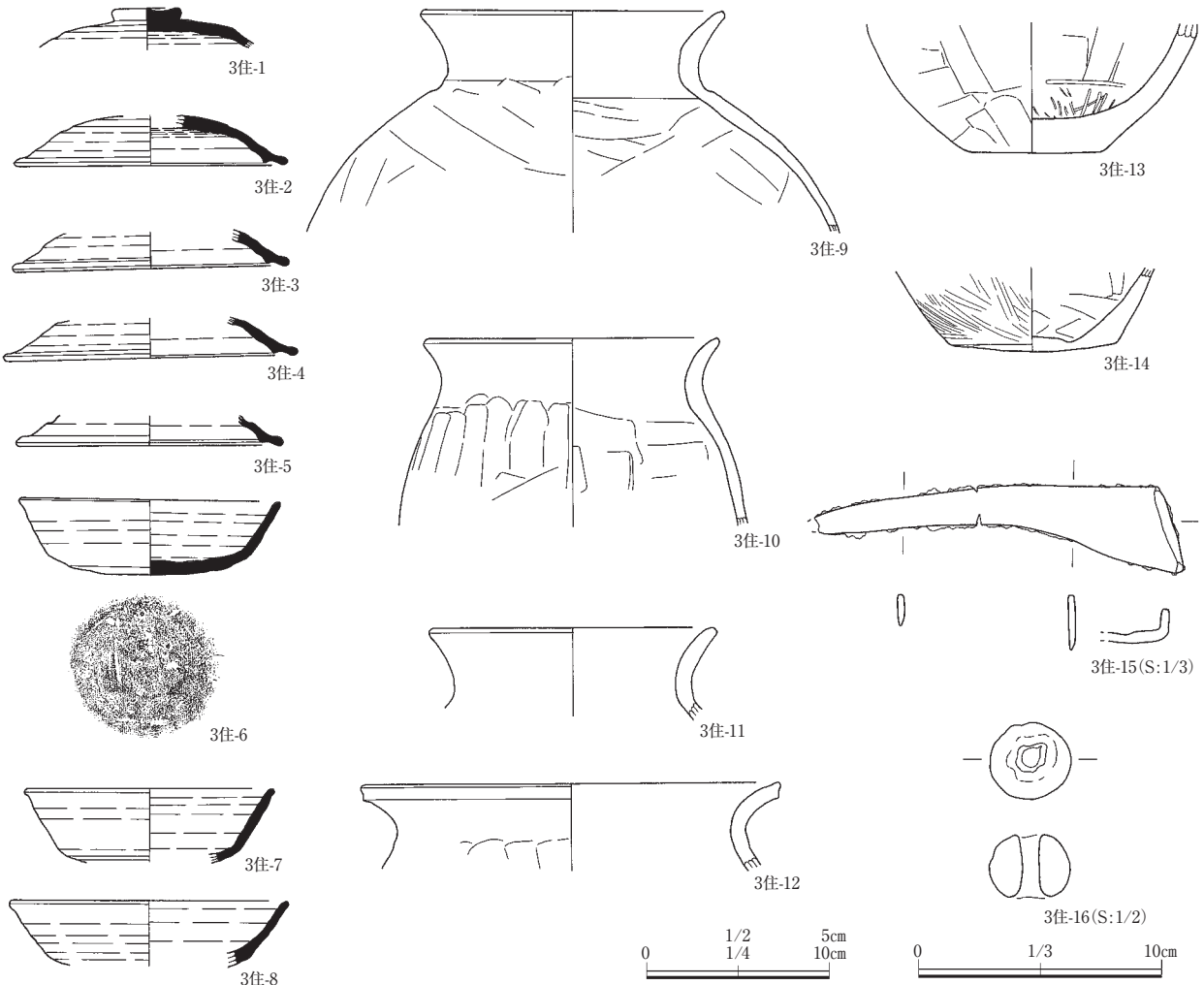
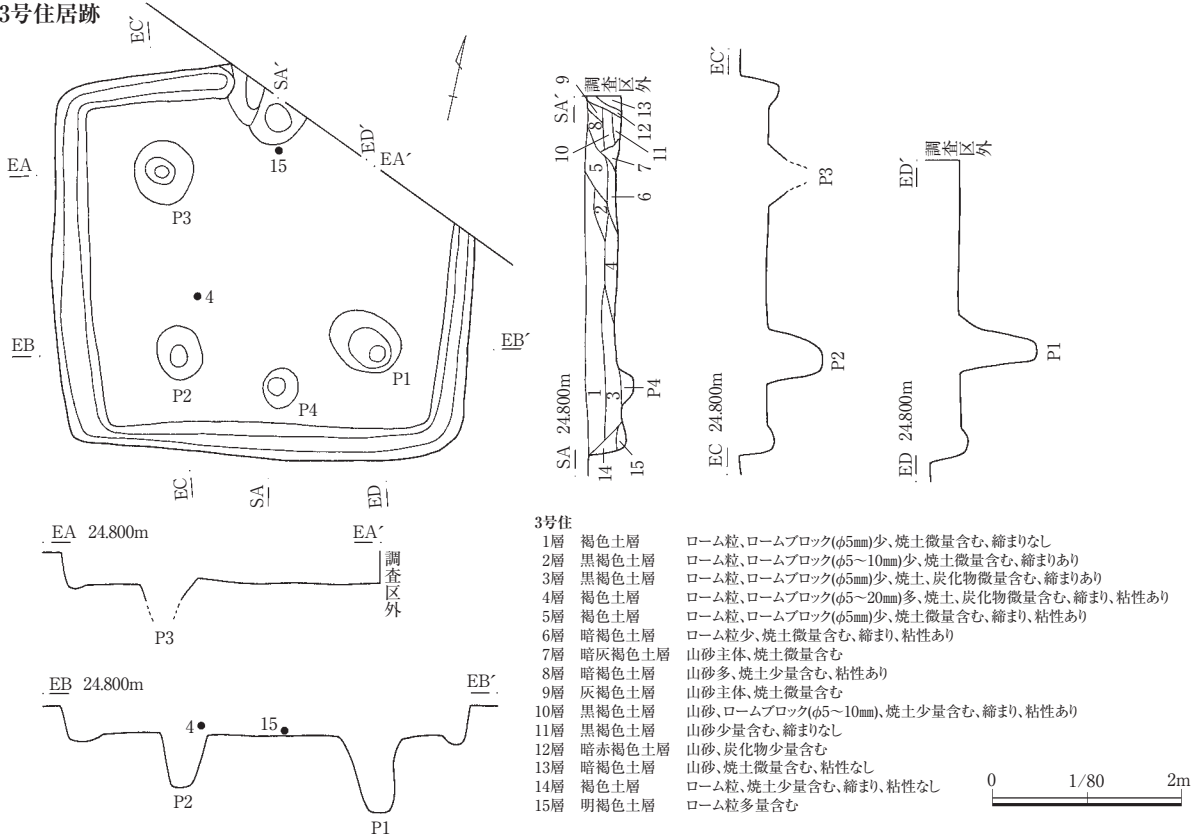
2号住

- | | | |
|-----|--------|-------------------------------------|
| 1層 | 褐色土層 | ローム粒、焼土、炭化物少量含む、粘性あり |
| 2層 | 褐色土層 | ローム粒、ロームブロック(φ5mm)少、山砂、焼土微量含む、縮まりあり |
| 3層 | 黒暗褐色土層 | ローム粒、ロームブロック(φ5~15mm)少、焼土、炭化物微量含む |
| 4層 | 暗褐色土層 | ローム粒、焼土、炭化物微量含む、縮まり、粘性あり |
| 5層 | 暗褐色土層 | ローム粒、焼土少量含む、縮まり、粘性あり |
| 6層 | 褐色土層 | ローム粒、焼土微量含む、粘性あり |
| 7層 | 暗褐色土層 | 山砂少、ローム粒、焼土微量含む |
| 8層 | 暗赤褐色土層 | 焼土多、炭化物少量含む、縮まりあり |
| 9層 | 赤褐色土層 | 焼土主体、ローム粒少量含む、縮まりあり、粘性なし |
| 10層 | 暗赤褐色土層 | 焼土多、山砂含む、縮まりあり、粘性なし |
| 11層 | 赤褐色土層 | 焼土多、山砂少量含む、縮まりあり、粘性なし |
| 12層 | 赤褐色土層 | 焼土主体、縮まりあり、粘性なし |
| 13層 | 暗赤褐色土層 | 焼土多、炭化物微量含む、縮まりあり、粘性なし |
| 14層 | 褐色土層 | ロームブロック(φ5~10mm)少量含む、縮まり、粘性なし |
| 15層 | 明褐色土層 | ローム粒多、焼土、炭化物少量含む、縮まりあり |
| 16層 | 褐色土層 | ソフトローム含む、縮まりなし |



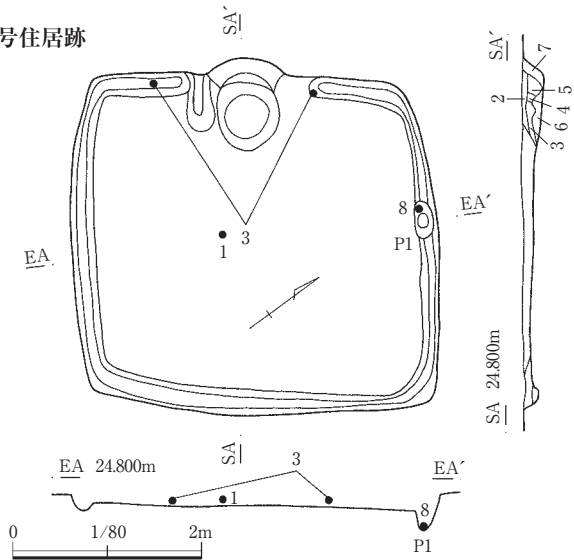
第6図 古井戸後遺跡2号住居跡・出土遺物

3号住居跡



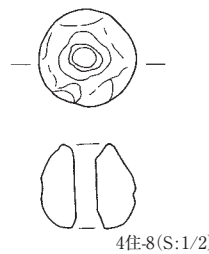
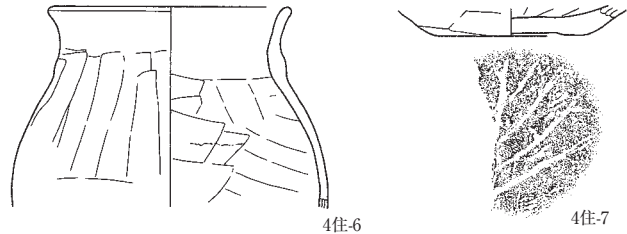
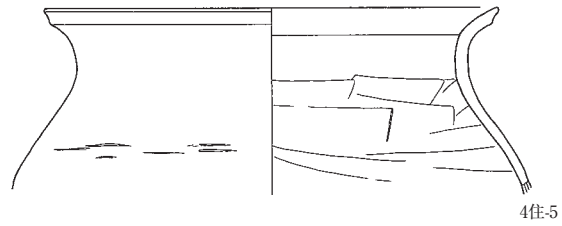
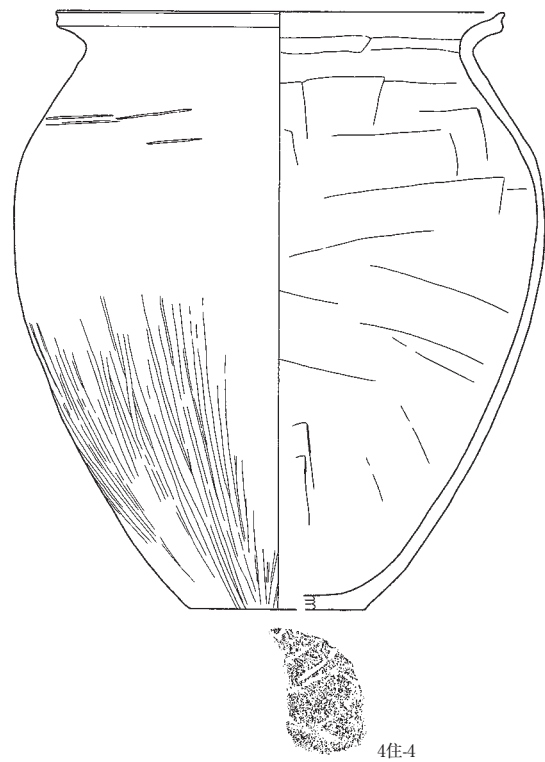
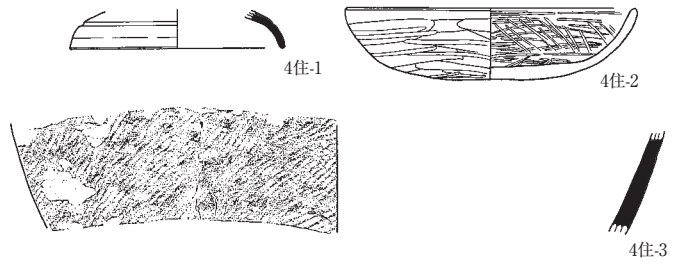
第7図 古井戸後遺跡3号住居跡・出土遺物

4号住居跡

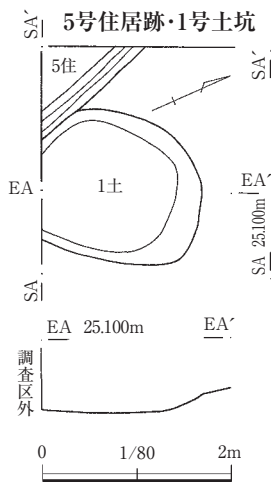


4号住

- 1層 暗褐色土層 ローム粒、ロームブロック(φ5~10mm)少、焼土微量含む、締まりあり
- 2層 灰赤褐色土層 山砂、焼土含む、粘性なし
- 3層 灰赤褐色土層 山砂多、焼土含む
- 4層 暗赤褐色土層 山砂多、焼土含む、締まり、粘性なし
- 5層 暗褐色土層 焼土、山砂少量含む、粘性あり
- 6層 黒暗褐色土層 山砂、焼土少量含む、粘性あり
- 7層 明褐色土層 ソフトローム主体、山砂、焼土少量含む、締まり、粘性あり
- 8層 褐色土層 ソフトローム含む、粘性なし
- 9層 明褐色土層 ローム粒、ロームブロック(φ20mm)多量含む、粘性なし

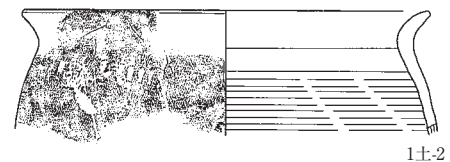
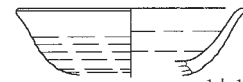


5号住居跡・1号土坑



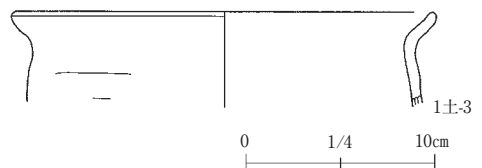
5号住

- 1層 暗褐色土層 ローム粒、焼土少量含む、締まり、粘性なし
- 2層 黒褐色土層 ローム粒、焼土、炭化物微量含む
- 3層 黒褐色土層 焼土、炭化物微量含む、締まり、粘性なし
- 4層 褐色土層 ロームブロック(φ5~10mm)含む、締まりあり
- 5層 暗褐色土層 ロームブロック(φ5~15mm)少量含む、締まり、粘性あり
- 6層 褐色土層 ローム粒微量含む



1号土坑

- 1層 黒褐色土層 ローム粒、ロームブロック(φ5~10mm)少、炭化物微量含む、締まりあり、粘性なし
- 2層 明褐色土層 ローム主体、締まりあり



第8図 古井戸後遺跡 4号住居跡・出土遺物、5号住居跡、1号土坑・出土遺物

第4章 馬場遺跡（第8地点）（第9図～14図、図版2・3・7～10）

第1節 調査の概要

馬場遺跡は、利根川の支流、将監川の南岸から0.9km程の内陸部に位置する標高26mの台地上に立地する。本遺跡ではこれまでに7地点で調査が実施され、今回の調査区域は遺跡範囲の南西部、第4地点の東側、第5地点の南側に隣接する。調査は260.02㎡を対象に地形に従って6ヶ所のトレンチを設定し、合計44.1㎡の確認調査を実施した。その結果、全てのトレンチから縄文時代の竪穴住居跡、土坑、ピットなどを検出、縄文時代後期、晩期を主体とする遺物も出土した。これを受け、影響範囲である北西側20㎡の本調査を実施した。

第2節 調査の成果

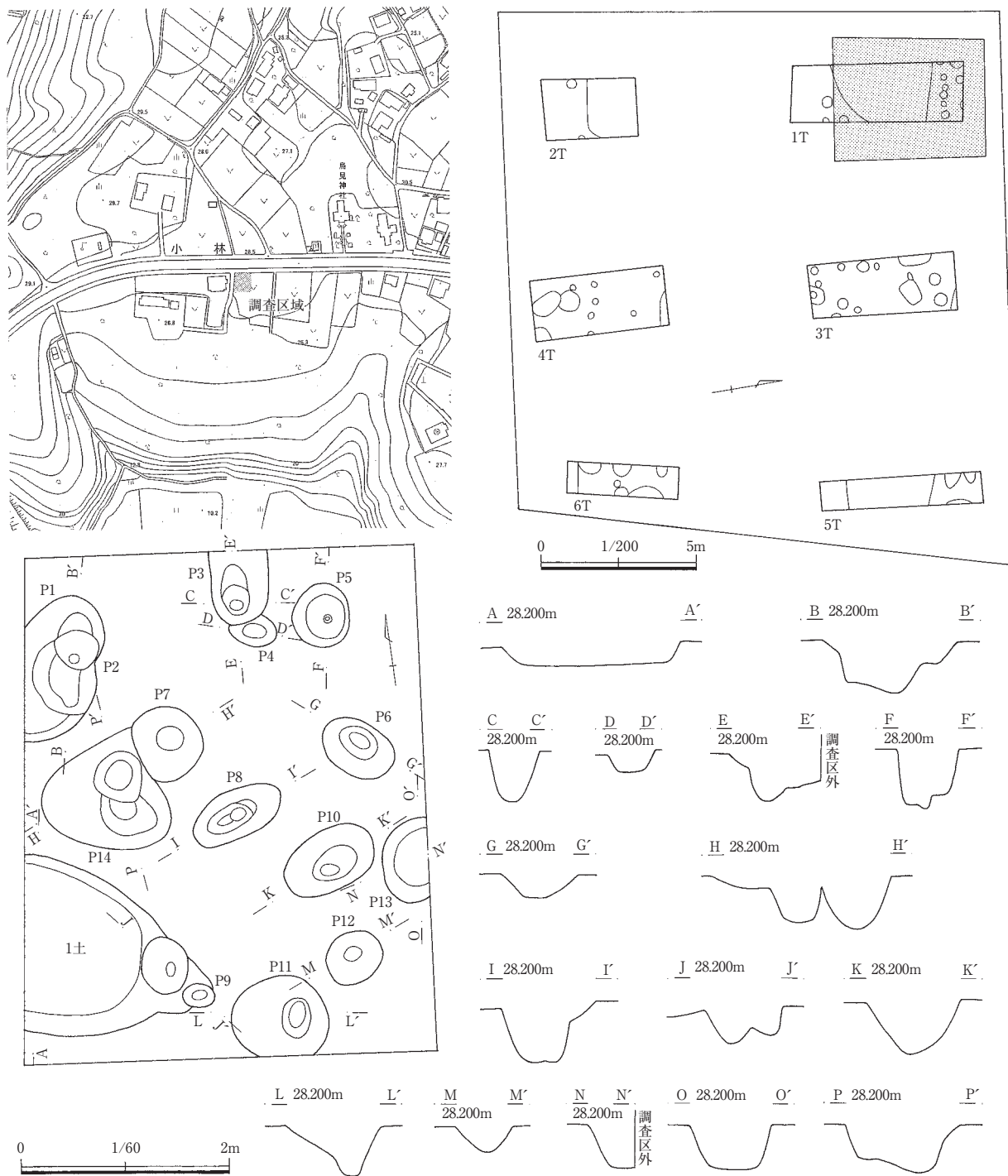
本調査では、土坑1基及びピット14基が検出された。遺物は縄文時代中期及び後期、晩期の縄文土器、土製品、石器等が出土した。

第3表 馬場遺跡遺構一覧表

No.	形態	規模 (m)	主軸	備考
1土	不整楕円形	〈1.92〉×1.64×0.26	N-61°-W	調査区南西隅で検出、西側は区域外。底面は平坦で壁面は斜状に立上る。
P1	不整楕円形	〈1.75〉×〈0.74〉×0.23	N-30°-E	調査区北西隅で検出、西側は区域外。2Pと重複。壁面は斜状に立上る。
P2	不整楕円形	1.35×0.59×0.31	N-18°-E	調査区北西隅で検出。1Pと重複。底面は北側最深部に向かい斜状に落ち込む。覆土骨片混入。
P3	不整楕円形	〈0.70〉×0.56×0.49	N-5°-E	北側は調査区域外。4Pと重複。底面は南側が深い。
P4	楕円形	0.40×0.30×0.20	N-68°-W	調査区北側で検出。3Pと重複。底面はほぼ平坦で壁面は斜状に立上る。
P5	円形	0.60×0.56×0.55	N-10°-W	調査区北側東寄りで検出。底面中央に小ピット。壁面は直状に立上る。
P6	楕円形	0.74×0.50×0.28	N-53°-W	調査区中央東寄りで検出。底面は小さく斜状に立上る。
P7	不整形	0.70×0.66×0.49	N-38°-W	調査区西寄りで検出。椀状に掘り込まれる。P14と重複する。覆土に骨片混入。
P8	楕円形	0.92×0.46×0.60	N-69°-E	調査区ほぼ中央で検出。東側でテラス状となる。
P9	楕円形	0.29×0.22×0.33	N-61°-W	調査区南側で検出。椀状に掘り込まれる。1土と重複する。覆土に骨片混入。
P10	楕円形	0.91×0.57×0.52	N-74°-E	調査区東寄りで検出。椀状に掘り込まれる。覆土に骨片混入。
P11	不整形	0.92×(0.77)×0.46	N-76°-W	調査区南端で検出。南側は区域外。底面は小さく斜状に立上る。
P12	円形	0.56×0.48×0.26	N-65°-E	調査区南東寄りで検出。壁面は斜状に立上る。
P13	楕円形	0.82×(0.45)×0.26	N-19°-E	調査区東端で検出。東側は区域外。底面は比較的平坦。
P14	不整形	1.26×1.15×0.46	N-68°-W	調査区中央西寄りで検出。P7と重複する。覆土に骨片混入。

第4表 馬場遺跡遺物観察表

No.	器種	部位	口径(長軸)cm×器高(短軸)cm×底径(幅)cm、(重量)g、文様・調整等	出土地点	備考
1土-1	深鉢	口縁部	口唇部円頭形、横位沈線文区画内単節RL充填	1土	後期前葉
1土-2	深鉢	口縁部	口唇部外面刻み、弧状沈線文	1土	後期前葉
1土-3	深鉢	口縁部	格子目状沈線文、内面凹線1条	1土	後期中葉
1土-4	深鉢	胴部	弧状沈線文	1土	後期前葉
1土-5	深鉢	胴部	単節LR地紋、斜位沈線文	1土	後期前葉
1土-6	深鉢	胴部	頸部横位条線文区画内斜位条線文、一部格子目状	1土	後期中葉
1土-7	深鉢	胴部	横位連続爪形文2条、連続刺突文、斜位条線文	1土	後期後葉
1土-8	深鉢	底部	-×(2.7)×(9.2)cm、無文	1土	後期
P1-1	深鉢	口縁部	口唇部尖頭状、単節LR地文、弧状条線文	P1	後期前葉
P1-2	深鉢	胴部	横位沈線文区画、連続押圧文、斜位条線文	P1	後期中葉
P1-3	深鉢	胴部	横位連続刺突文、斜位条線文	P1	後期中葉
P1-4	土製耳飾	1/4	-×-×1.1cm、5.2g、渦文状貼付文、無文	P1	晩期
P1-5	土製耳飾	1/4	-×-×1.1cm、4.6g、波状貼付文、無文	P1	晩期
P1-6	土製耳飾	1/4	-×-×1.2cm、5.1g、無文	P1	晩期
P1-7	土製耳飾	1/4	-×-×1.2cm、3.1g、無文	P1	晩期
P2-1	深鉢	口縁部	口唇部外面紐線文、単節LR地文、内面凹線1条	P2	後期中葉
P2-2	深鉢	口縁部	口唇部屈曲外反、外面刻み、口縁部下横位連続刺突文、沈線文区画内単節RL充填、以下無文	P2	後期中葉
P2-3	深鉢	口縁部	口唇部内行、S字状貼付文、単節RL帯縄文、弧状沈線文区画内無文	P2	後期後葉
P2-4	深鉢	口縁部	口縁部外反、単沈線ある貼付文、単節RL帯縄文、弧状沈線文区画内無文	P2	後期後葉
P2-5	深鉢	胴部	頸部ブタ鼻状貼付文、横位連続爪形文区画内矢羽状沈線文充填	P2	後期後葉



第9図 馬場遺跡（第8地点）周辺地形図、トレンチ配置図、遺構配置図・断面図

No.	器種	部位	口径(長軸)cm×器高(短軸)cm×底径(幅)cm、(重量)g、文様・調整等	出土地点	備考
P2-6	深鉢	胴部	弧状条線文	P2	後期後葉
P2-7	深鉢	底部	—×(3.1)×(5.9)cm、無文、縦位ミガキ	P2	後期後葉
P2-8	注口土器	注口部	注口部2cm、単沈線ある貼瘤文	P2	後期後葉
P3-1	深鉢	口縁部	口縁部下刻みある横位沈線文区画内無文、貼瘤文	P3	後期後葉
P3-2	深鉢	口縁部	格子目状沈線文、内面沈線1条	P3	後期中葉
P3-3	深鉢	口縁部	口唇部角頭状、やや肥厚、外面単節RL、太沈線区画内無文	P3	晩期中葉
P3-4	土器片製円盤	完形	4.0×3.5×0.8cm、14.8g、周縁部摩耗全周	P3	後期後葉
P4-1	深鉢	胴部	縦位条線文	P4	後期後葉

No.	器種	部位	口径(長軸)cm×器高(短軸)cm×底径(幅)cm、(重量)g、文様・調整等	出土地点	備考
P4-2	深鉢	胴部	斜位条線文	P4	後期後葉
P6-1	深鉢	口縁部	口縁部下紐線文、横位弧状条線文	P6	後期中葉
P6-2	深鉢	胴部	太沈線文区画内単節LR充填	P6	後期中葉
P7-1	深鉢	口縁部	小波状口縁、突起、口縁部下横位連続爪形文、斜位条線文	P7	後期中葉
P7-2	深鉢	胴部	頸部横位連続押圧文、太沈線文区画内単節RL充填	P7	後期中葉
P7-3	深鉢	胴部	頸部横位連続刺突文、胴部縦位乃至斜位条線文	P7・表採	後期中葉
P5-1	深鉢	口縁部	突起、単沈線ある貼瘤文、横位連続爪形文区画内区切り文	P5	後期後葉
P5-2	深鉢	口縁部	口縁部肥厚、単節RL帯縄文区画内無文	P5	後期後葉
P5-3	深鉢	口縁部	単節LR地文	P5	後期中葉
P5-4	深鉢	口縁部	紐線文、単節LR地文	P5	後期中葉
P5-5	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文、内面凹線1条	P5	後期中葉
P5-6	深鉢	口縁部	紐線文、単節LR地文、内面凹線1条	P5	後期中葉
P5-7	深鉢	胴部	不明縄文地文、斜位条線文	P5	後期中葉
P5-8	浅鉢	胴部	頸部屈曲、単節LR地文、弧状太沈線文区画内無文、胴部下半横位弧状条線文	P5	後期中葉
P5-9	浅鉢	胴部	頸部屈曲、連続刺突文、無文、胴部下半横位弧状条線文	P5	後期中葉
P5-10	深鉢	底部	一×(4.8)×(5.5)cm、無文	P5	後期中葉
P5-11	石皿	側縁部	15.0g、多孔質安山岩	P5	
P5-12	石皿	側縁部	8.0g、多孔質安山岩	P5	
P8-1	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁部下無文、縦位沈線文区画、集合沈線連結	P8	後期前葉
P8-2	深鉢	口縁部	波状口縁、単節RL帯縄文、単沈線ある貼瘤文、フタ鼻状貼付文	P8	後期後葉
P8-3	深鉢	口縁部	波状口縁、紐線文、単節LR地文	P8	後期中葉
P8-4	深鉢	口縁部	弧状紐線文、不明縄文、横位乃至斜位太条線文、内面凹線2条	P8	後期中葉
P8-5	深鉢	口縁部	紐線文、不明縄文、斜位条線文	P8	後期中葉
P8-6	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文、内面凹線1条	P8	後期中葉
P8-7	深鉢	胴部	単節RL地文	P8	後期後葉
P8-8	深鉢	胴部	一×(12.8)×最大径(29.4)cm、単節RL帯縄文、弧状沈線内無文、三叉文、単沈線ある貼瘤文、横位沈線文区画内無文、胴部下半縦位乃至斜位弧状条線文	P8	後期後葉
P8-9	土製耳飾	1/4	一×一×1.4cm、4.1g、渦文状貼付文、無文	P8	晩期
P8-10	磨石	完形	7.9×5.5×4.2cm、262.7g、表面凹み、上下面使用痕、安山岩	P8	
P9-1	深鉢	口縁部	口唇部外面刻み、太沈線文区画内単節LR充填	P9	後期中葉
P9-2	浅鉢	口縁部	口縁部内行、口縁下無文、頸部横位沈線文区画内斜位条線文	P9	後期中葉
P9-3	深鉢	口縁部	紐線文、不明縄文地文、横位乃至斜位条線文	P9	後期中葉
P9-4	深鉢	胴部	縦位条線文	P9	後期前葉
P9-5	深鉢	底部	一×2.2×4.2cm、無文	P9	後期
P10-1	浅鉢	口縁部	無文	P10	後期中葉
P10-2	浅鉢	口縁部	波状口縁、横位条線文	P10	後期中葉
P10-3	深鉢	口縁部	無文、沈線文区画	P10	後期中葉
P10-4	深鉢	口縁部	波状口縁、口唇部外面刻み、横位沈線文区画内斜位条線文	P10	後期中葉
P10-5	深鉢	胴部	横位沈文区画内単節RL充填	P10	後期中葉
P10-6	深鉢	胴部	斜位条線文	P10	後期後葉
P10-7	深鉢	底部	一×2.2×5.3cm、無文	P10	後期
P10-8	深鉢	底部	一×3.6×6.3cm、無文	P10	後期
P11-1	深鉢	口縁部	紐線文、不明縄文地文、横位弧状条線文	P11	後期中葉
P11-2	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文	P11	後期中葉
P11-3	深鉢	胴部	連続爪形文ある隆線文区画、単沈線ある貼瘤文	P11	後期後葉
P13-1	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁部下無文、横位沈線文区画内単節LR充填	P13	後期中葉
P13-2	深鉢	口縁部	単節RL地文、内面凹線1条	P13	後期中葉
P13-3	深鉢	口縁部	単節RL帯縄文	P13	後期後葉
P13-4	深鉢	口縁部	単節RL帯縄文	P13	後期後葉
P13-5	深鉢	胴部	単節RL地文	P13	後期前葉
P13-6	敲石	1/2	(5.4)×5.6×4.2cm、195.6g、下端使用痕、砂岩	P13	
P14-1	深鉢	口縁部	波状口縁、無節Lある隆帯文、角棒状工具による2列の押引文	P14	中期中葉
P14-2	浅鉢	口縁部	小波状口縁、頸部稜線、無文	P14・1T	後期中葉
P14-3	深鉢	口縁部	頸部稜線、無文	P14	後期中葉
P14-4	深鉢	口縁部	紐線文、不明縄文	P14	後期中葉
P14-5	深鉢	胴部	単節RL帯縄文	P14	後期後葉
P14-6	ミニチュア?	胴部	横位押引文、赤彩	P14	中期
P14-7	石錘	ほぼ完形	5.2×3.3×8.5cm、42.5g、両端を潰し調整、砂岩	P14	
遺構外-1	壺形土器	口縁～底部	(6.8)×(13.4)×-cm、口縁部から頸部横位太沈線、胴部単節RL地文	3T	後期中葉
遺構外-2	深鉢	口縁～胴部	(22.5)×(8.2)×-cm、格子目状沈線文、頸部指頭による横位磨り消し、内面凹線1条	表採	後期中葉
遺構外-3	浅鉢	口縁～底部	(23.4)×17.2×6.3cm、口縁部下無文、横位沈線文区画内連続押圧文、一部矢羽状をなす斜位条線文	3T	後期中葉
遺構外-4	台付土器	底～台部	一×(6.8)×7.4cm、胴部横位沈線文、台部上半横位沈線区画内区切り文、下半横位沈線文	4T	後期中葉
遺構外-5	台付土器	口縁～底部	(8.0)×10.4×7.0cm、口縁部内湾、口縁部下凹線文、以下無文	4T	後期中葉

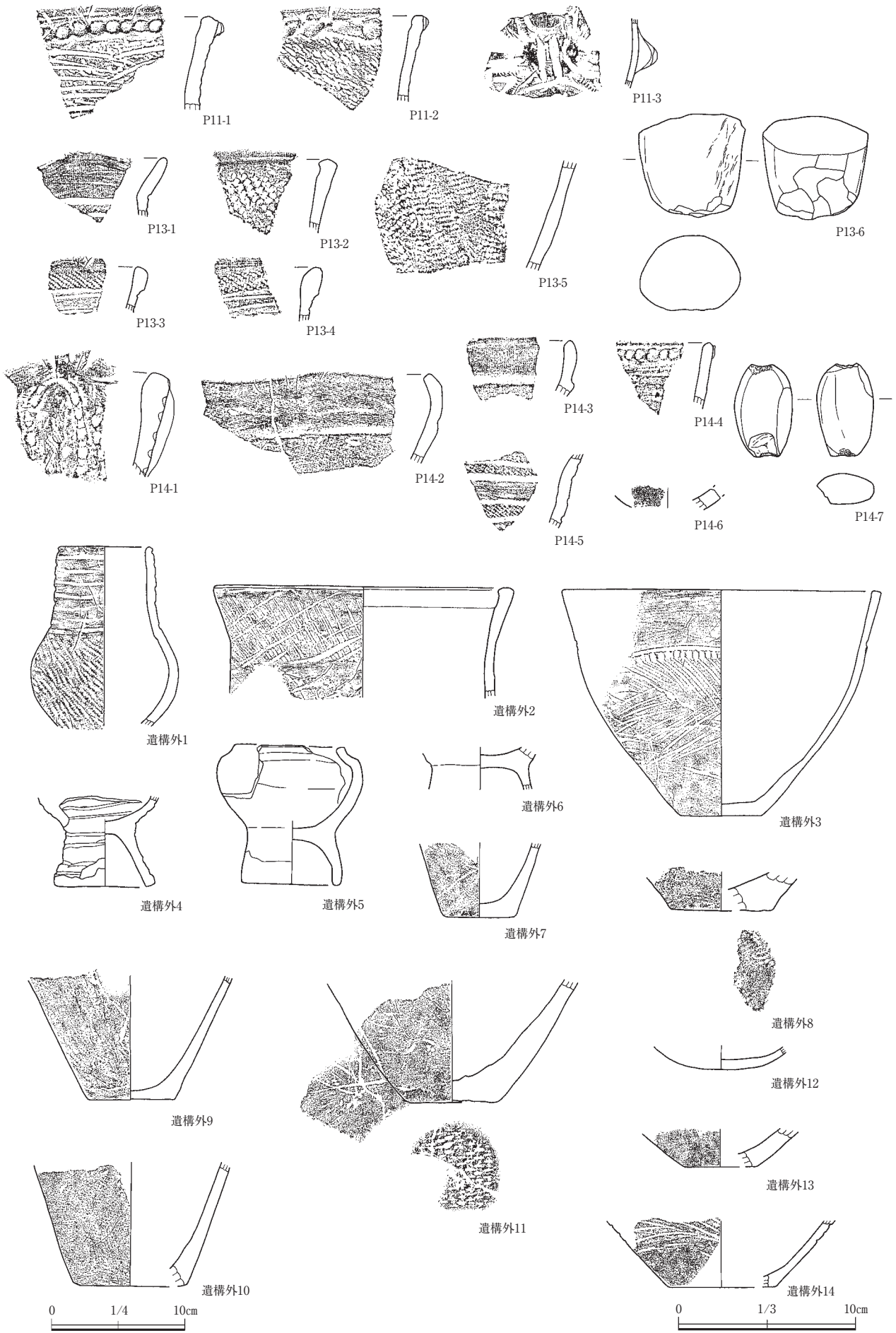
No.	器種	部位	口径(長軸)cm×器高(短軸)cm×底径(幅)cm、(重量)g、文様・調整等	出土地点	備考
遺構外-6	台付土器	底部	—×(3.2)×—cm、無文、横位ミガキ	4T	後期中葉
遺構外-7	深鉢	底部	—×(5.6)×5.2cm、無文	3T	後期
遺構外-8	深鉢	底部	—×(2.8)×(7.8)cm、無文、底面周縁部に網代痕	4T	後期
遺構外-9	深鉢	底部	—×(9.4)×6.6cm、無文、縦位ミガキ	3T	後期
遺構外-10	深鉢	底部	—×(9.3)×(7.8)cm、無文、底面周縁部に網代痕	表採	後期
遺構外-11	深鉢	底部	—×(9.2)×6.8cm、交差する斜位沈線文、底面に網代痕	4T	後期
遺構外-12	浅鉢	底部	無文、丸底	6T	後期
遺構外-13	浅鉢	底部	—×(2.8)×(5.3)cm、無文	6T	後期
遺構外-14	浅鉢	底部	—×(5.0)×(8.0)cm、横位沈線区画内斜位条線文	表採	後期
遺構外-15	深鉢	胴部	微隆起線文区画、単節LR地文	表採	中期後葉
遺構外-16	深鉢	胴部	弧状沈線文区画内単節LR充填	2T	後期前葉
遺構外-17	深鉢	胴部	単節LR地文、沈線文区画内連続刺突文	6T	後期前葉
遺構外-18	深鉢	口縁部	単節LR地文、沈線文区画内無文	1T	後期中葉
遺構外-19	深鉢	胴部	単節LR地文、太沈線文区画内無文	表採	後期中葉
遺構外-20	深鉢	口縁部	小波状口縁、突起、横位沈線文区画	表採	後期前葉
遺構外-21	深鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部外面刻み、口縁部下横位沈線文	1T	後期中葉
遺構外-22	深鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部外面刻み、口縁部下横位沈線文、沈線文区画	2T	後期中葉
遺構外-23	深鉢	口縁部	口唇部外面刻み2条、口縁部下横位沈線文区画内単節RL充填	1T	後期中葉
遺構外-24	深鉢	口縁部	小波状口縁、横位沈線文区画内単節RL充填	1T	後期中葉
遺構外-25	深鉢	口縁部	波状口縁、波頂部弧状貼付文、口縁部下無文、刻みある横位沈線文区画内弧状沈線文	表採	後期中葉
遺構外-26	浅鉢	口縁部	小波状口縁、口縁部下無文、横位沈線文区画内連続押圧文、斜位条線文	3T	後期中葉
遺構外-27	浅鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部外面刻み、口縁部下無文、横位沈線文区画内斜位条線文	表採	後期中葉
遺構外-28	浅鉢	口縁部	口縁部下単節LR地文、頸部横位沈線文	表採	後期中葉
遺構外-29	浅鉢	口縁部	頸部稜線	表採	後期中葉
遺構外-30	深鉢	胴部	単節RL地文	3T	後期中葉
遺構外-31	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文	3T	後期中葉
遺構外-32	深鉢	口縁部	紐線文、単節LR地文	5T	後期中葉
遺構外-33	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文	表採	後期中葉
遺構外-34	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文	表採	後期中葉
遺構外-35	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文、斜位条線文	2T・1住	後期中葉
遺構外-36	深鉢	口縁部	紐線文、単節RL地文	1T	後期中葉
遺構外-37	深鉢	口縁部	紐線文、不明縄文地文	1T	後期中葉
遺構外-38	深鉢	口縁部	紐線文2条、単節RL地文、内面凹線文2条	5T	後期中葉
遺構外-39	深鉢	胴部	紐線文、口縁部下条線文、単節RL地文	3T	後期中葉
遺構外-40	深鉢	口縁部	不明縄文地文、格子目状条線文、内面凹線文2条	1T	後期中葉
遺構外-41	深鉢	胴部	頸部無文、胴部不明縄文地文、格子目状条線文	1T	後期中葉
遺構外-42	深鉢	口縁部	波状口縁、波頂部単沈線ある突起、ブタ鼻状貼付文、単節RL帯縄文	表採	後期後葉
遺構外-43	深鉢	胴部	ブタ鼻状貼付文、単節RL帯縄文	1T	後期後葉
遺構外-44	深鉢	口縁部	単節LR帯縄文	表採	後期後葉
遺構外-45	深鉢	胴部	単節RL帯縄文	5T	後期後葉
遺構外-46	深鉢	胴部	刻みある隆線文区画内無文、ブタ鼻状貼付文、円形貼付文	1T	晩期前葉
遺構外-47	深鉢	口縁部	口縁部単節RL充填、太沈線文区画内無文	4T	晩期前葉
遺構外-48	深鉢	口縁部	沈線文区画内斜位乃至横位条線文充填	表採	晩期中葉
遺構外-49	深鉢	口縁部	口唇部沈線文、単沈線ある貼付文、外面一部刻み、弧状沈線区画内無文	6T	晩期中葉
遺構外-50	深鉢	口縁部	口縁部下横位沈線文区画、入組状沈線文	6T	晩期中葉
遺構外-51	深鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部貼付文、横位太沈線文	4T	晩期中葉
遺構外-52	深鉢	口縁部	口縁部下横位沈線文区画内連続刺突文	1T	晩期中葉
遺構外-53	深鉢	口縁部	口唇部貼付文、口縁部下単節LR地文、横位連続刺突文2条	表採	晩期中葉
遺構外-54	深鉢	口縁部	口縁部屈曲外反、口唇部貼付文、器外面ケズリ痕、横位沈線文	3T	晩期中葉
遺構外-55	深鉢	口縁部	口縁部内面折り返し肥厚、杵状文	6T	晩期中葉
遺構外-56	深鉢	胴部	杵状文	4T	晩期中葉
遺構外-57	深鉢	口縁部	太沈線文	4T	晩期中葉
遺構外-58	深鉢	口縁部	口唇部外面刻み、口縁部下横位沈線文区画内斜位沈線区画内無節L充填	3T	後期後葉
遺構外-59	深鉢	口縁部	小波状口縁、横位弧状条線文	6T	後期後葉
遺構外-60	深鉢	口縁部	口縁部外面折り返し肥厚、口唇部下横位連続爪形文、横位弧状条線文	6T	晩期
遺構外-61	深鉢	口縁部	口縁部肥厚、横位弧状条線文	6T	晩期
遺構外-62	深鉢	口縁部	口縁部肥厚、横位弧状条線文	5T	晩期
遺構外-63	深鉢	口縁部	口縁部肥厚内面横位ケズリ、横位弧状条線文	表採	晩期
遺構外-64	深鉢	口縁部	口縁部やや肥厚、横位弧状条線文	6T	晩期
遺構外-65	深鉢	底部	無文	表採	後期
遺構外-66	人面把手付土器	把手部	外面人面、内面橋状の把手、二つの突起で頭髪部、T字状隆線で眉及び鼻、棒状工具による刺突で目、弧状の貼付文で耳朶を表現	4T	晩期
遺構外-67	土偶	左脚部	(3.9)×2.6×2.2cm、31.4g、やや蟹股に開いた脚部。爪先及び踵部分貼付文で表現。	表採	
遺構外-68	土器片製円盤	完形	5.5×5.0×0.8cm、27.6g、周縁部摩耗全周。土器片錘を志向したか。	表採	
遺構外-69	石皿	一部残存	137.0g、表面やや凹み。絹雲母片岩。	表採	
遺構外-70	磨石	一部残存	51.6g、側縁部使用により摩耗。安山岩。	5T	
遺構外-71	磨石	一部残存	81.8g、側縁部使用により摩耗。安山岩。	表採	
遺構外-72	石皿	一部残存	101.2g、表面やや凹み。多孔質安山岩。	表採	



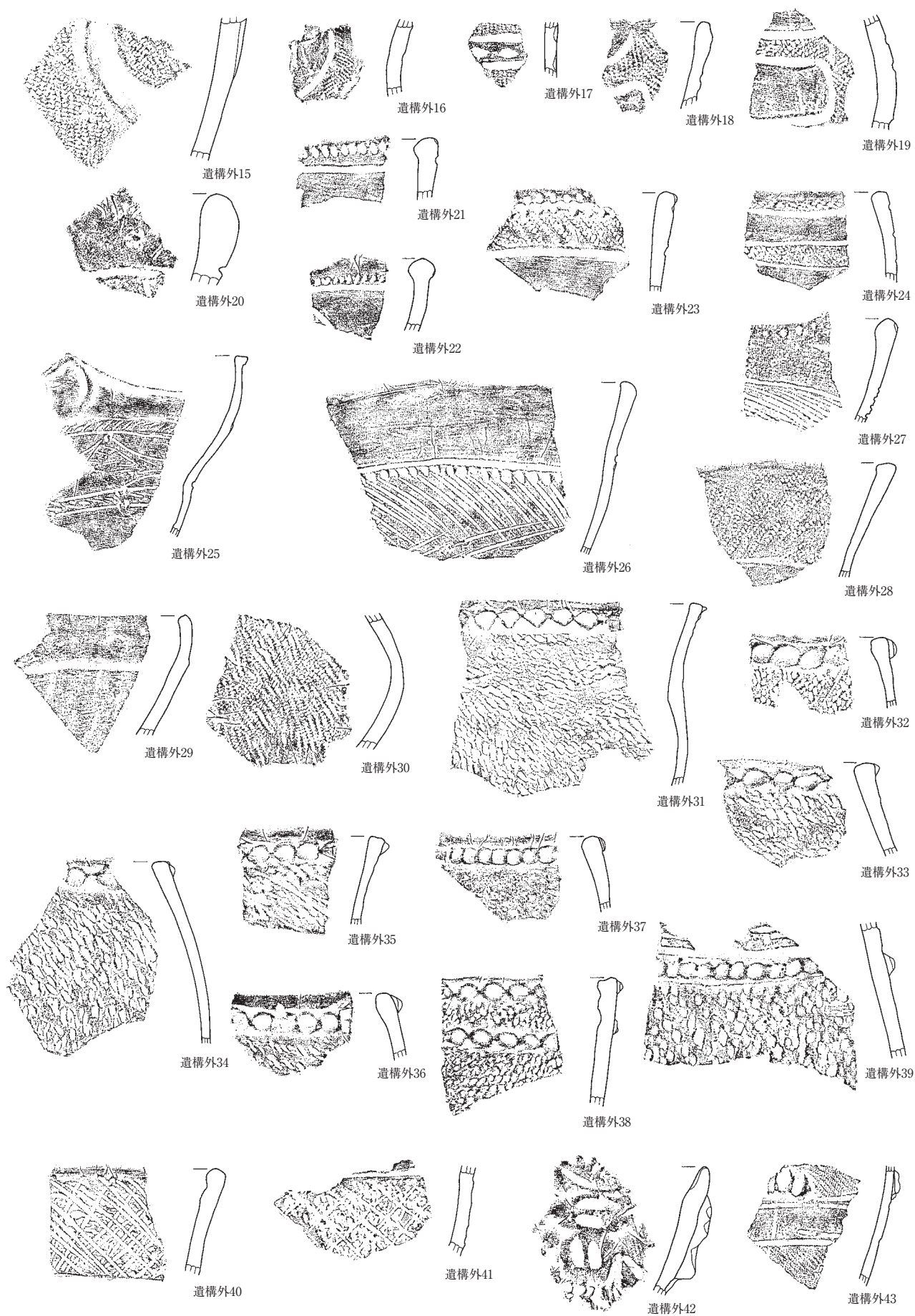
第10図 馬場遺跡（第8地点）出土遺物(1)



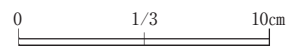
第11図 馬場遺跡（第8地点）出土遺物(2)

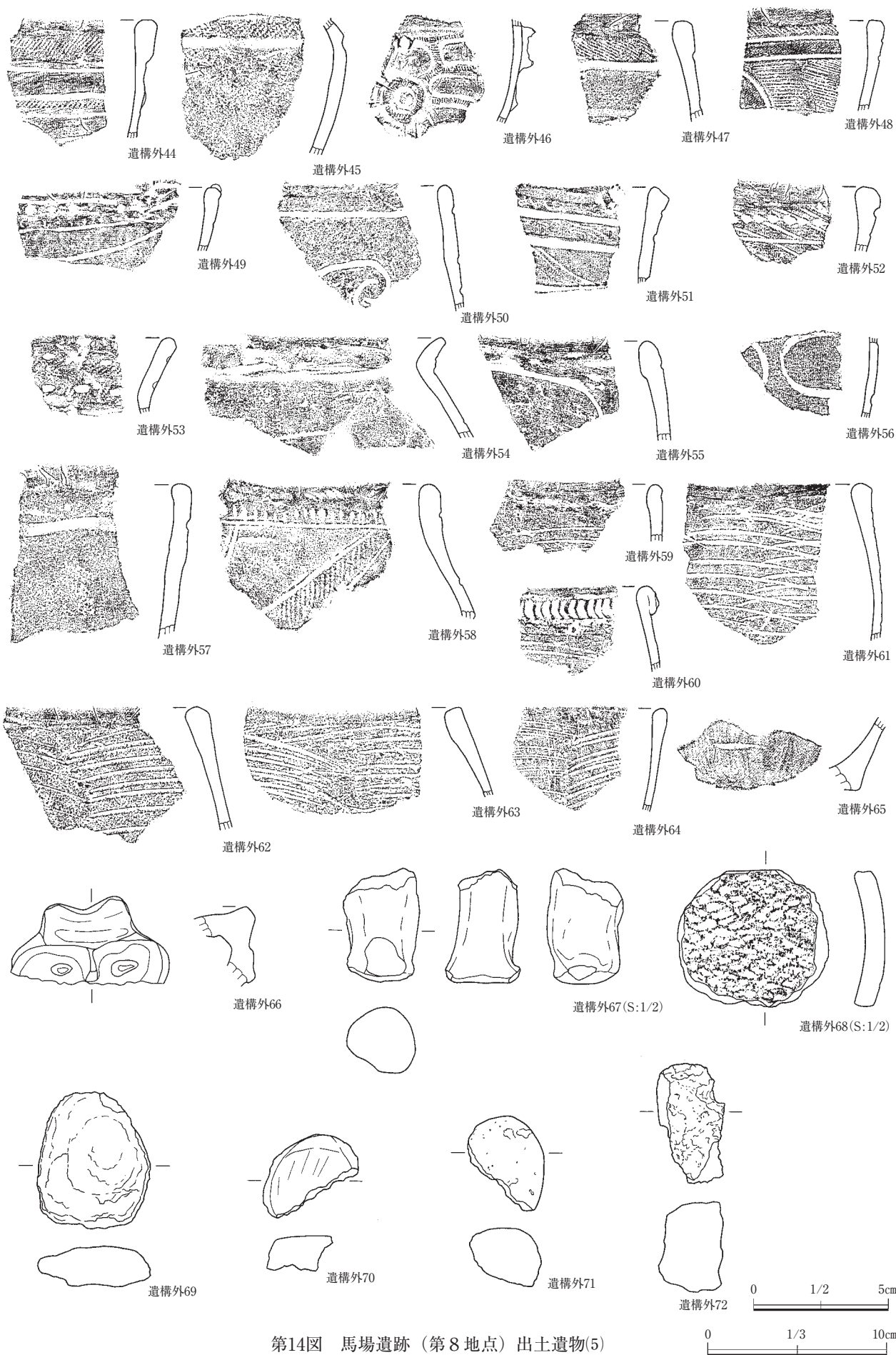


第12図 馬場遺跡（第8地点）出土遺物(3)



第13図 馬場遺跡（第8地点）出土遺物(4)





第14図 馬場遺跡（第8地点）出土遺物(5)

第5章 木戸場遺跡（第4地点）（第15図、図版3）

第1節 調査の概要

新川の北岸1.1km程に位置する標高25mの台地上に立地する。調査区域は遺跡範囲の南端、遺跡境界近くに位置する。調査は300.01㎡を対象に調査区地形に従って、当初は7ヶ所のトレンチを設定、2ヶ所の拡張部分を加え、合計79.25㎡について確認調査を実施した。

第2節 調査の成果

確認調査の結果、北東側及び南東側トレンチから古墳時代後期と想定される竪穴住居跡2軒が検出された。出土遺物は土師器、須恵器などが認められた。しかし、これらの資料は、いずれも小破片で出土量もごく僅かであり、実測個体の抽出はできなかった。



第15図 木戸場遺跡（第4地点）周辺地形図、トレンチ配置図

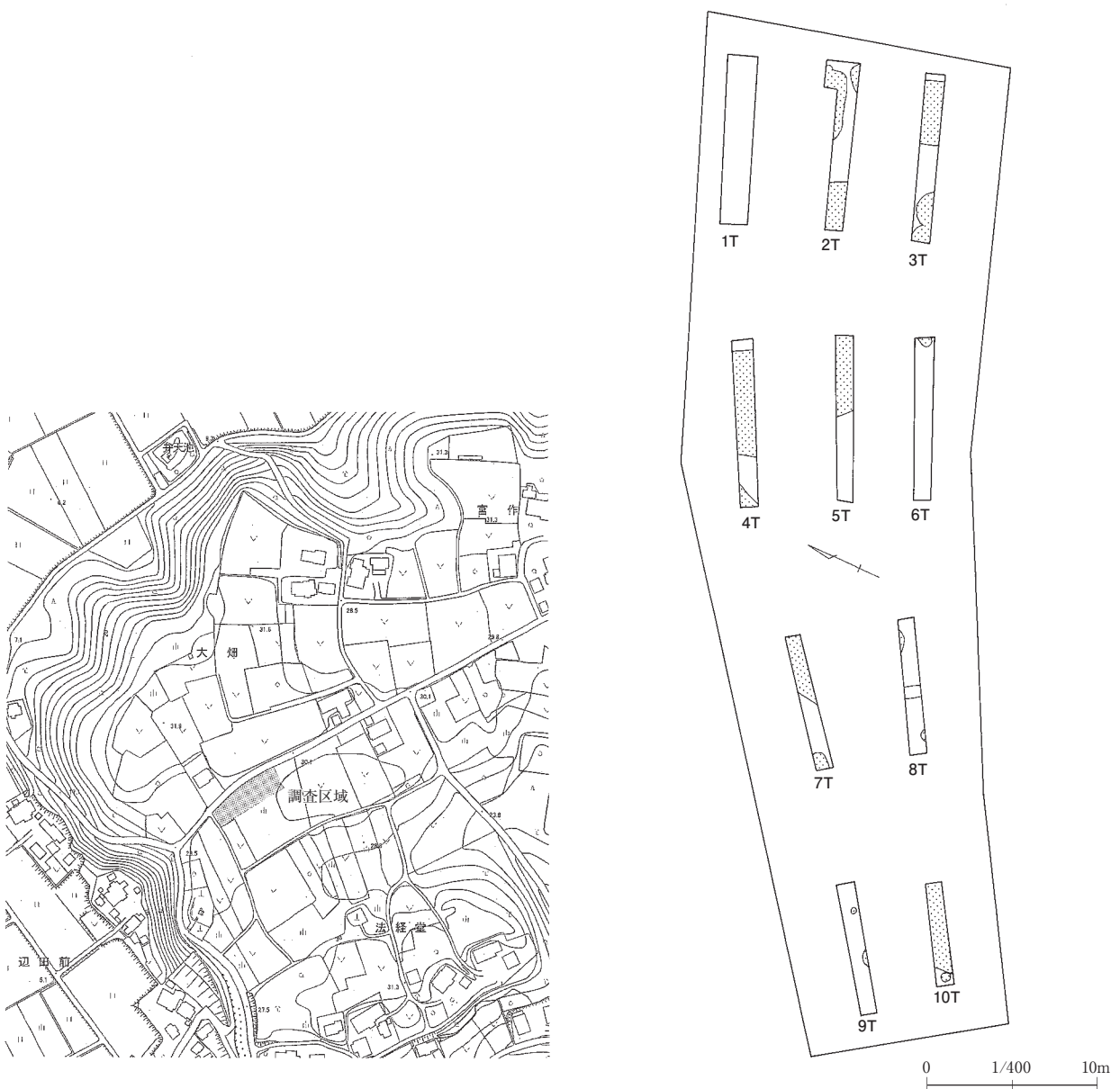
第6章 大畑遺跡 (第16図、図版4・10)

第1節 調査の概要

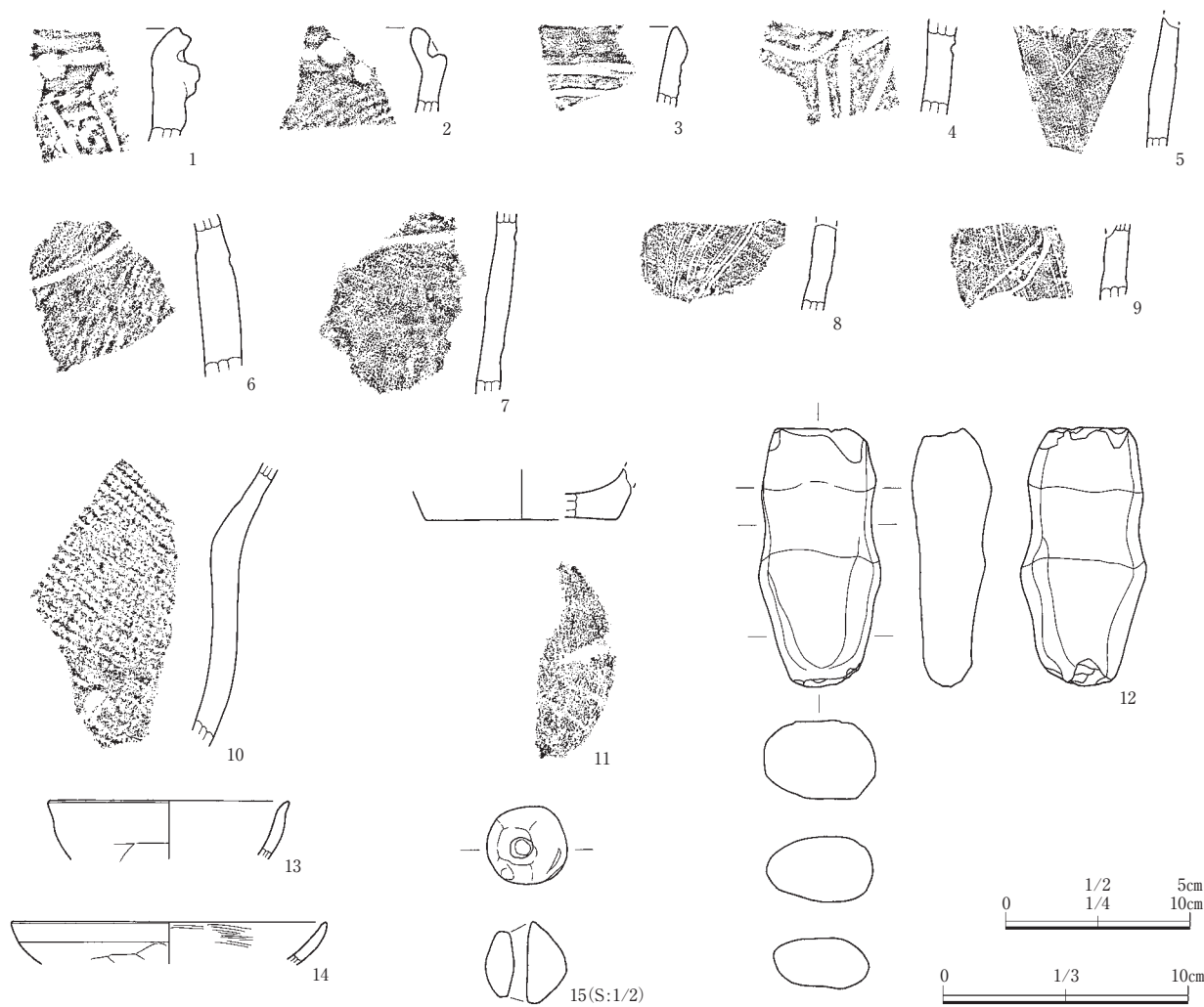
西印旛沼の北岸から0.5km程に位置する標高30mの台地上平坦部分に立地する。調査区域は遺跡範囲の中央南西寄りに位置する。調査は997㎡を対象に調査区形状に従ってトレンチを10ヶ所設定し、101.5㎡の部分について確認調査を実施した。

第2節 調査の成果

確認調査の結果、1トレンチを除き、調査区域のほぼ全域から遺構が検出された。確認された遺構は、縄文時代竪穴住居跡2軒、ピット2基、古墳時代竪穴住居跡10軒などである。遺物は、縄文時代後期土器を主体として、縄文時代石製品、古墳時代土師器などが出土した。



第16図 大畑遺跡周辺地形図、トレンチ配置図、出土遺物



第17図 大畑遺跡出土遺物

第5表 大畑遺跡遺物観察表

No.	器種	部位	文様等	出土地点	備考
1	深鉢	口縁部	口唇部突起、外面円孔、沈線文、縦位沈線区画	5T	後期前葉
2	深鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部外面円孔、無節R地文	表採	後期前葉
3	深鉢	口縁部	不明縄文地文、横位条線文	3T	後期前葉
4	深鉢	胴部	単節LR地文、縦位沈線文区画	3T	後期前葉
5	深鉢	胴部	幾何状沈線文	4T	後期前葉
6	深鉢	胴部	単節LR地文、弧状沈線文区画	表採	後期前葉
7	深鉢	胴部	弧状沈線文	2T	後期前葉
8	深鉢	胴部	縦位条線文、弧状沈線文	表採	後期前葉
9	深鉢	胴部	縦位条線文、弧状沈線文	表採	後期前葉
10	深鉢	胴部	単節RL地文	3T	後期前葉
11	深鉢	底部	無文	表採	
12	独鈷石		(10.2) × 5.0 × 3.1cm、231.2g、頭部先端敲打痕、中央部2条突帯、両面及び側面摩耗、片頭部欠損、ホルンフェルス。	表採	

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
13	土師器 坏	(13.0)	(3.2)	—	口縁部横ナデ、内外面ヘラナデ後ナデ。	良	橙褐色	石英・長石粒子多量	口縁部片、内外面赤彩
14	土師器 坏	(17.0)	(2.3)	—	口縁部横ナデ、外面ヘラナデ後ナデ、内面ヘラミガキ。	良	褐色	石英・長石粒子多量	口縁部片
15	土玉	最大長2.2cm × 最大幅2.1cm × 最大厚2.2cm。重量9.6g。							

第7章 打出第2遺跡（第2地点）（第18図、図版4・10）

第1節 調査の概要

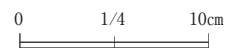
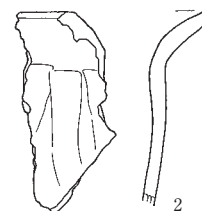
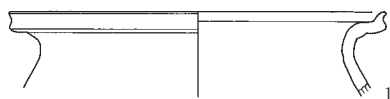
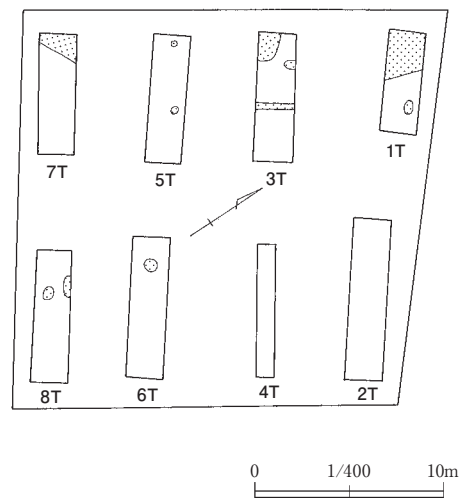
西印旛沼の北岸から1.6km程に位置する標高35mの台地上に立地する。調査区域は遺跡範囲の南端部近くに位置し、調査区域は東側から南側、さらに西側で谷津に近接し、平坦部分は狭くなる。調査は453㎡を対象に調査区形状に従って8ヶ所のトレンチを設定し、104㎡の部分について確認調査を実施した。

第2節 調査の成果

確認調査の結果、東側2ヶ所のトレンチを除き、古墳時代竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、土坑7基、溝状遺構1条等の遺構が検出された。遺物は古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器、須恵器などが出土した。

第6表 打出第2遺跡（第2地点）遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)			調整	焼成	色調	胎土	備考
		口径	器高	底径					
1	土師器	(20.0)	(4.5)	—	口縁部横ナデ、胴部内外面ナデ。	良	橙褐色	石英・長石粒子・雲母多量、黒色粒子少量	口縁部片
	甍								
2	土師器	—	(10.3)	—	口縁部横ナデ、胴部外面ヘラナデ後ナデ、内面ナデ。	良	赤褐色	石英・長石粒子・雲母多量	口縁部片
	甍								



第18図 打出第2遺跡（第2地点）周辺地形図、トレンチ配置図、出土遺物

第8章 まとめ

○鳴神山遺跡

確認調査では1軒の竪穴住居跡が検出された。遺物は古墳時代から奈良・平安時代の土器が少量出土した。図示した遺物は、甕類は7世紀、坏類は8世紀代に比定できる資料である。過去に実施された北側隣接地区の調査では、200軒を超える奈良・平安時代の住居跡が検出され、その成果から本遺跡が船穂郷の中心的な集落として推定された。今回の調査によって検出された住居跡は1軒のみではあるが、大規模集落の南端部に続く、同一集落を構成する遺構として考えられる。

○古井戸後遺跡

調査区域は狭小な範囲ながらも、確認調査では9軒の竪穴住居跡が検出され、内5軒の本調査を実施した。出土遺物を概観すると、1号住では坏類及びNo.4の須恵器甕など8世紀後半の資料が目立つ。2号住では坏類を中心に7世紀末から8世紀初めの資料が出土する。3号住ではNo.9・10の甕など、7世紀代の資料が混在するが、その他、坏・蓋類などは8世紀第1四半期の時期にまとまる。4号住でもNo.2の蓋、No.4・5の甕など、7世紀代の資料が含まれるが、No.1の坏、No.3の常総甕などは8世紀第1四半期に比定される資料である。なお、5号住では遺物の出土は認められなかった。これらには遺構との帰属関係が不明確な資料も含まれるが、年代観としては、2・3・4号住は8世紀前後、その後に1号住が続く状況となろう。遺構の検出密度は高く、7・8世紀代を中心とする集落遺跡の存在が推定できる。

○馬場遺跡（第8地点）

第8地点の調査では、確認調査の結果、調査区のほぼ全域から縄文時代の竪穴住居跡、土坑、ピットが検出された。本調査では、土坑1基、ピット14基の調査を実施した。これらの遺構は、形態、規模などばらつきがあるが、出土した遺物は縄文時代後期が主体となる。遺物全体では、縄文時代中期中葉から晩期中葉まで認められるが、出土量としては後期加曽利B2式から安行2式が中心となる。土器以外の遺物では、とくに土製耳飾が5点出土する。内4点はピット1からの出土で、本遺構を縄文晩期の墓坑として性格付けることも可能であろう。また、4トレンチ出土の晩期に比定される人面把手付き土器（No.66）は注目される資料である。

○木戸場遺跡（第4地点）

第4地点調査区域の南東側に近接して、過去に3地点の調査が実施された。各地点は隣接し、奈良・平安時代を主体とする集落が検出されている。今回の確認調査では調査区の南東側、台地中央寄りから竪穴住居跡が2軒検出された。遺物の出土は少ないが、古墳時代後期の遺構と推定され、これまでの調査成果と併せ、古墳時代から奈良・平安時代の集落が周辺に広がる状況が推定できる。

○大畑遺跡

確認調査の結果、縄文時代及び古墳時代後期の竪穴住居跡等が検出され、集落遺跡の存在が明らかとなった。出土遺物は、縄文時代後期の土器、古墳時代後期の土師器が主体となる。図示した遺物では、縄文土器は後期堀之内式、土師器坏類は6世紀代の資料である。なお、No.12の独鈷石は縄文時代晩期に比定され、出土した縄文土器とは共伴しない資料と推定される。

○打出第2遺跡（第2地点）

確認調査では3軒の竪穴住居跡、土坑、溝状遺構が検出された。調査区域は遺跡範囲の南端部に近く、遺構の分布は北西側の谷津方向、台地の縁辺寄りに集中する。遺物の出土は少なく、図示した遺物も、8世紀中頃から後半の常総甕、7世紀代に比定できる甌の2点のみである。

写 真 图 版



鳴神山遺跡 1T



1T-2



2T



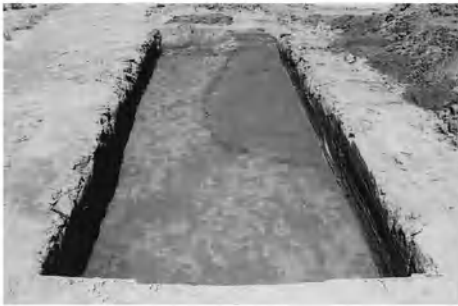
3T



調査風景



調査区遠景



古井戸後遺跡 1T



2T



3T



4T



5T



6T



7T



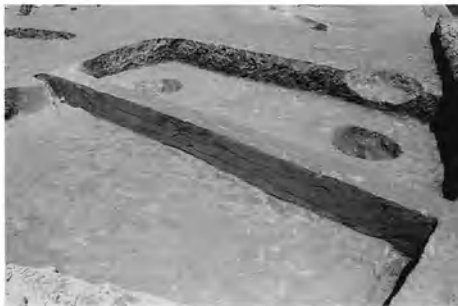
遺構検出状況



1号住居跡セクション



1号住居跡完掘



2号住居跡セクション



2号住居跡カマドセクション

図版2



2号住居跡カマド完掘



2号住居跡完掘



3号住居跡セクション



3号住居跡カマドセクション



3号住居跡完掘



4号住居跡セクション



4号住居跡遺物出土状況



4号住居跡完掘



5号住居跡セクション



5号住居跡完掘



調査風景



調査区全景



馬場遺跡 (第8地点) 1T



2T



3T



4T



5T



6T



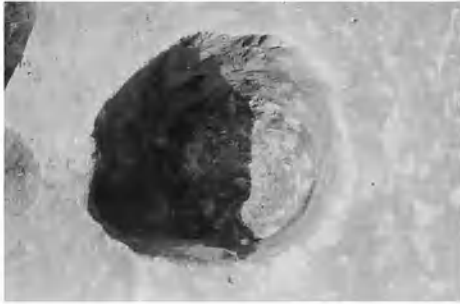
遺構検出状況



P1、P2



P3、P4



P5



P6



P7



P8



P9



P10



P11、12



P13



調査区全景



木戸場遺跡 (第4地点) 1T



2T



3T



4T



5T



6T

図版4



大畑遺跡 2T



3T



4T



5T



6T



7T



8T



9T



10T



打出第2遺跡 (第2地点) 1T



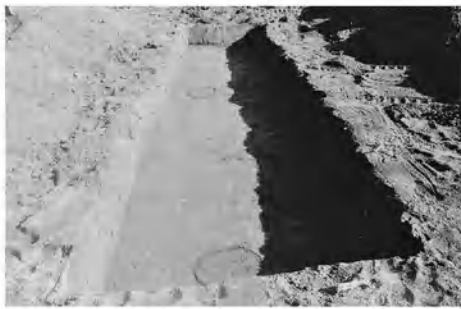
2T



3T



4T



5T



6T



7T

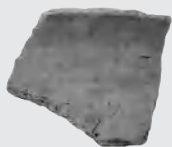


8T

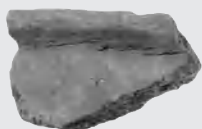


調査区遠景

鳴神山遺跡



1住1



1住2



1住3



1住4

古井戸後遺跡



1住1



1住2



1住3



1住5



1住4



1住6



1住7



1住8



1住9



2住1



2住2



2住5



2住4



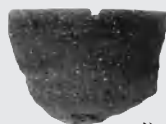
2住3



2住6



2住7



2住8



2住9



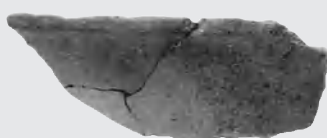
2住10



2住14



2住11

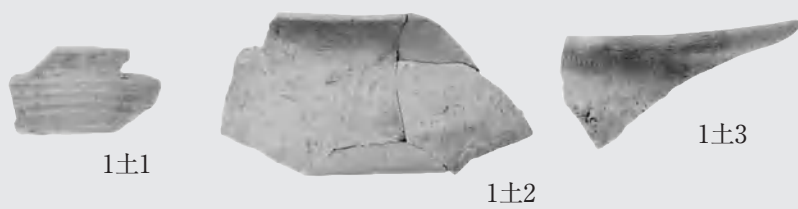
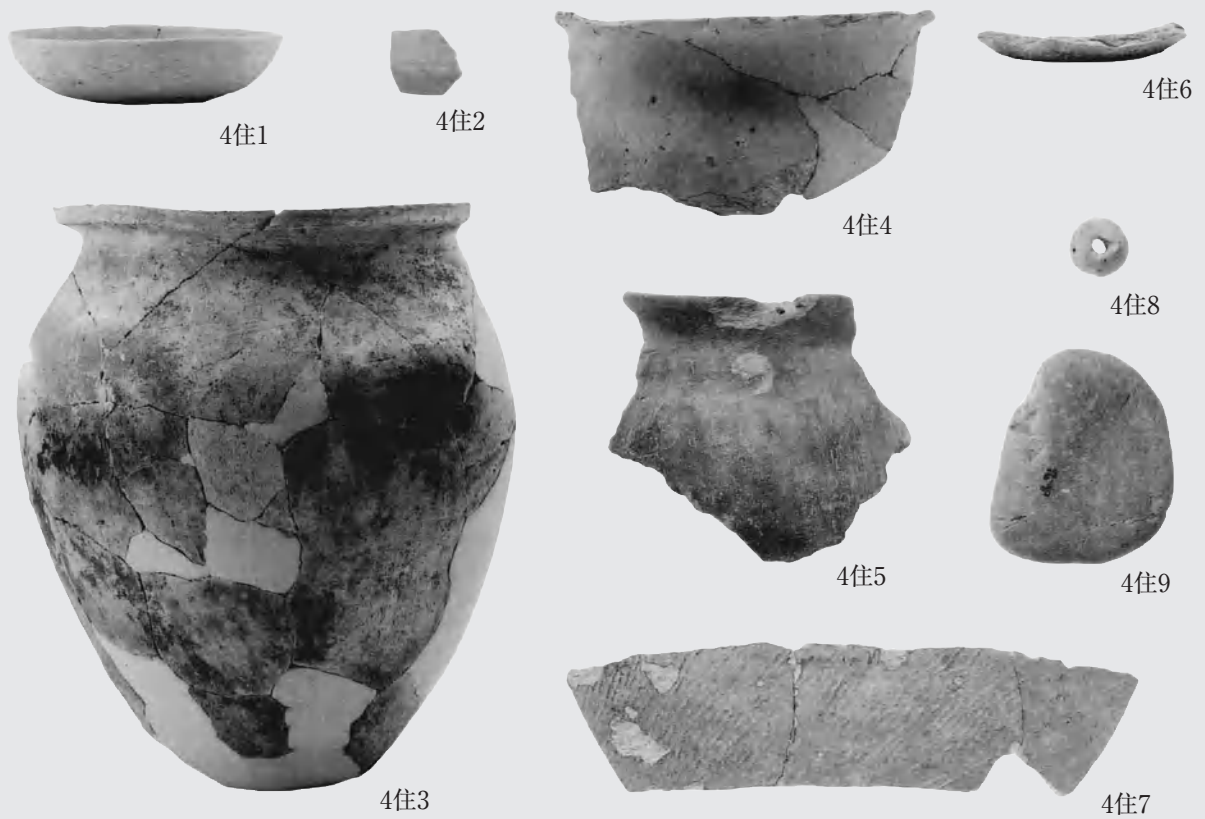
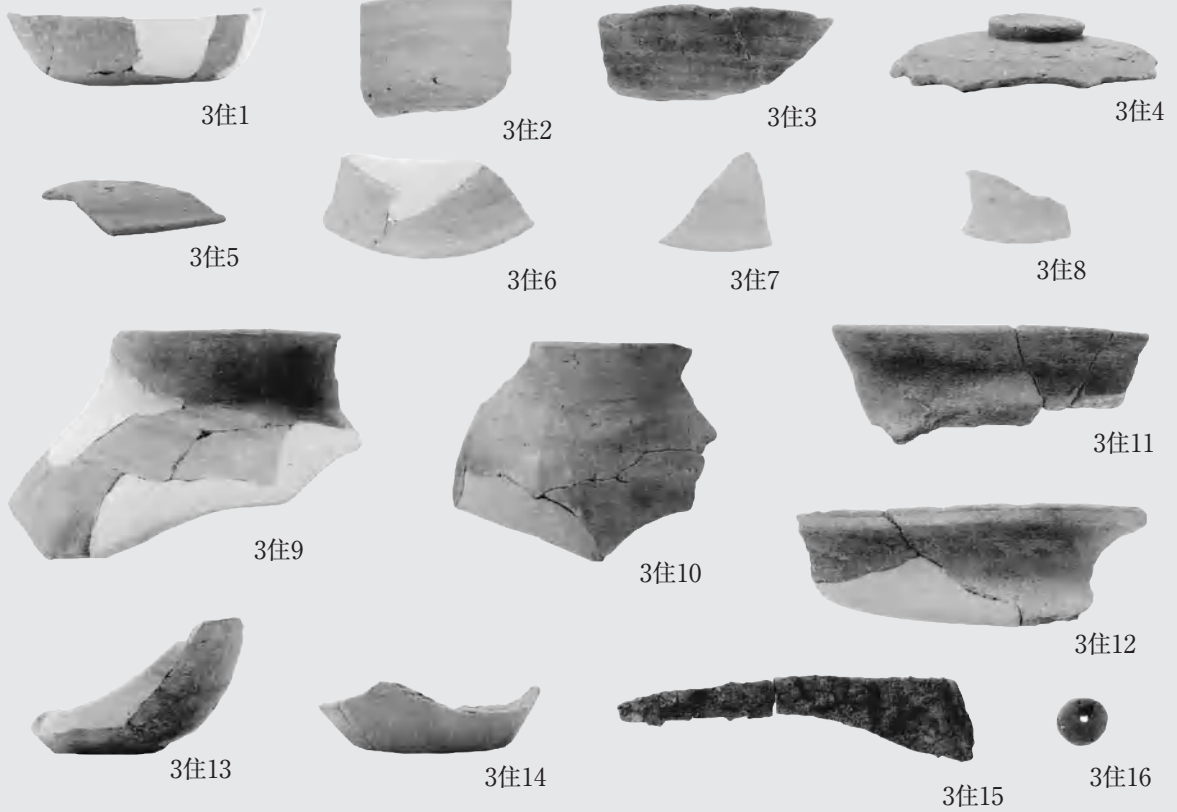


2住12

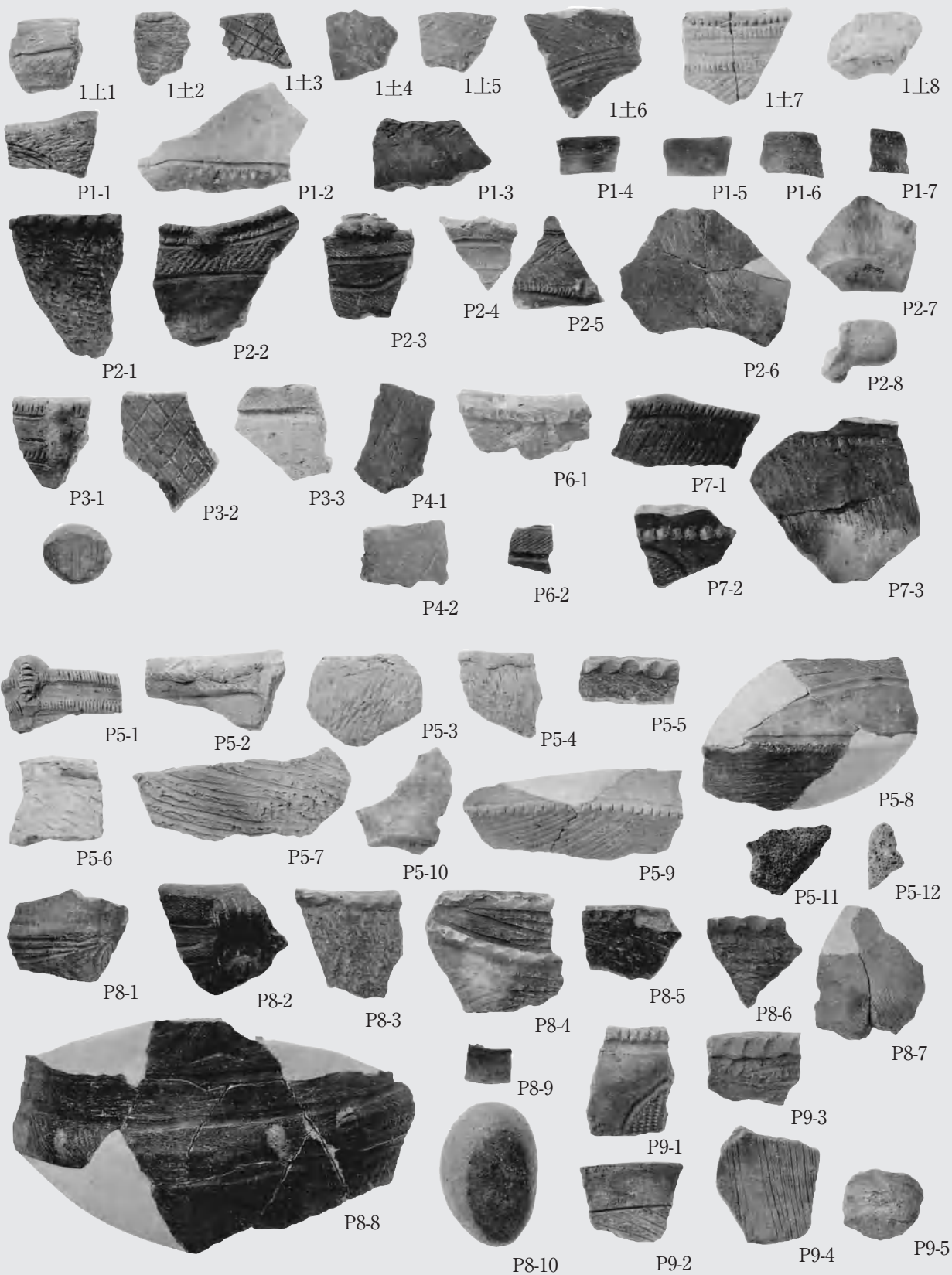


2住13

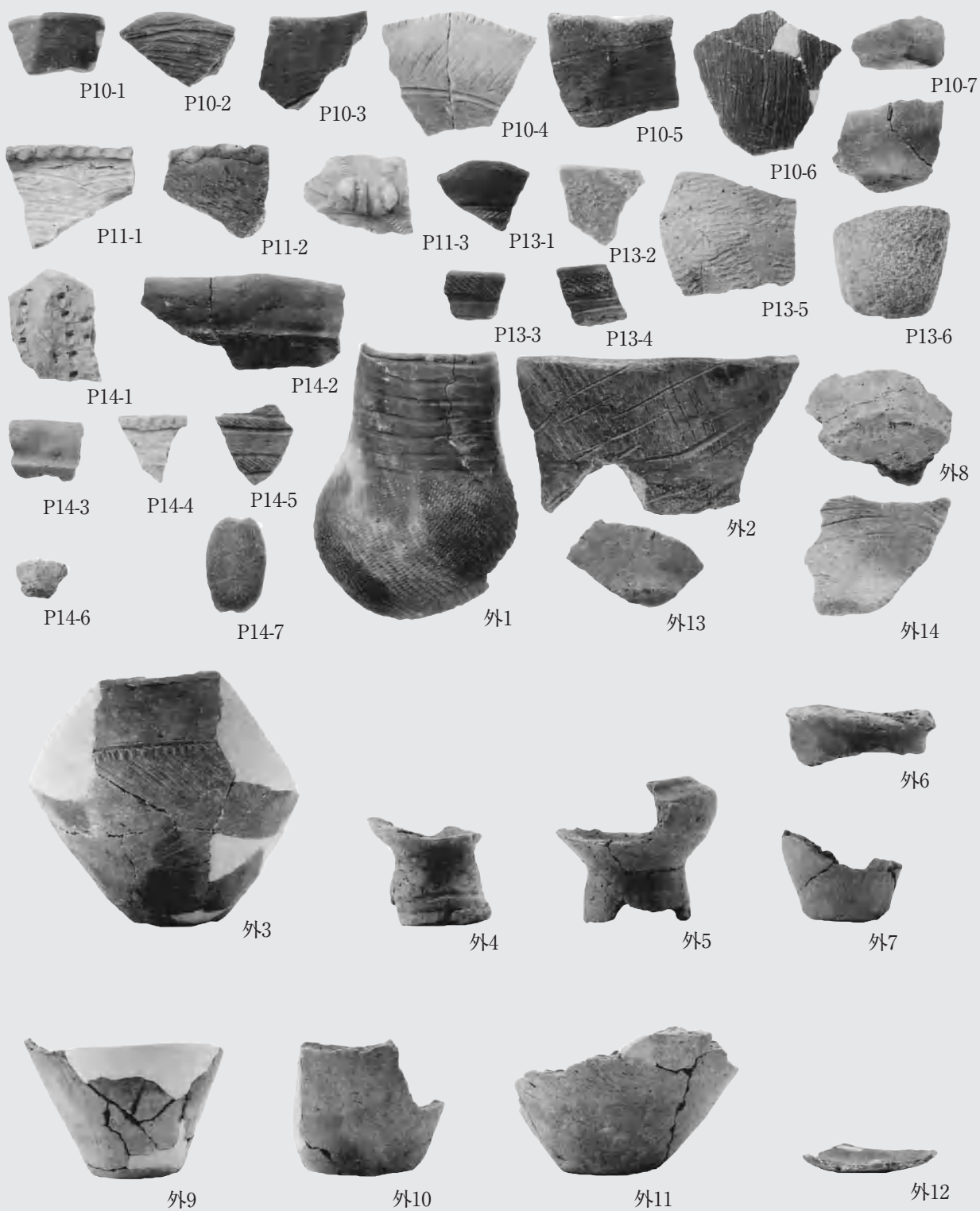
古井戸後遺跡



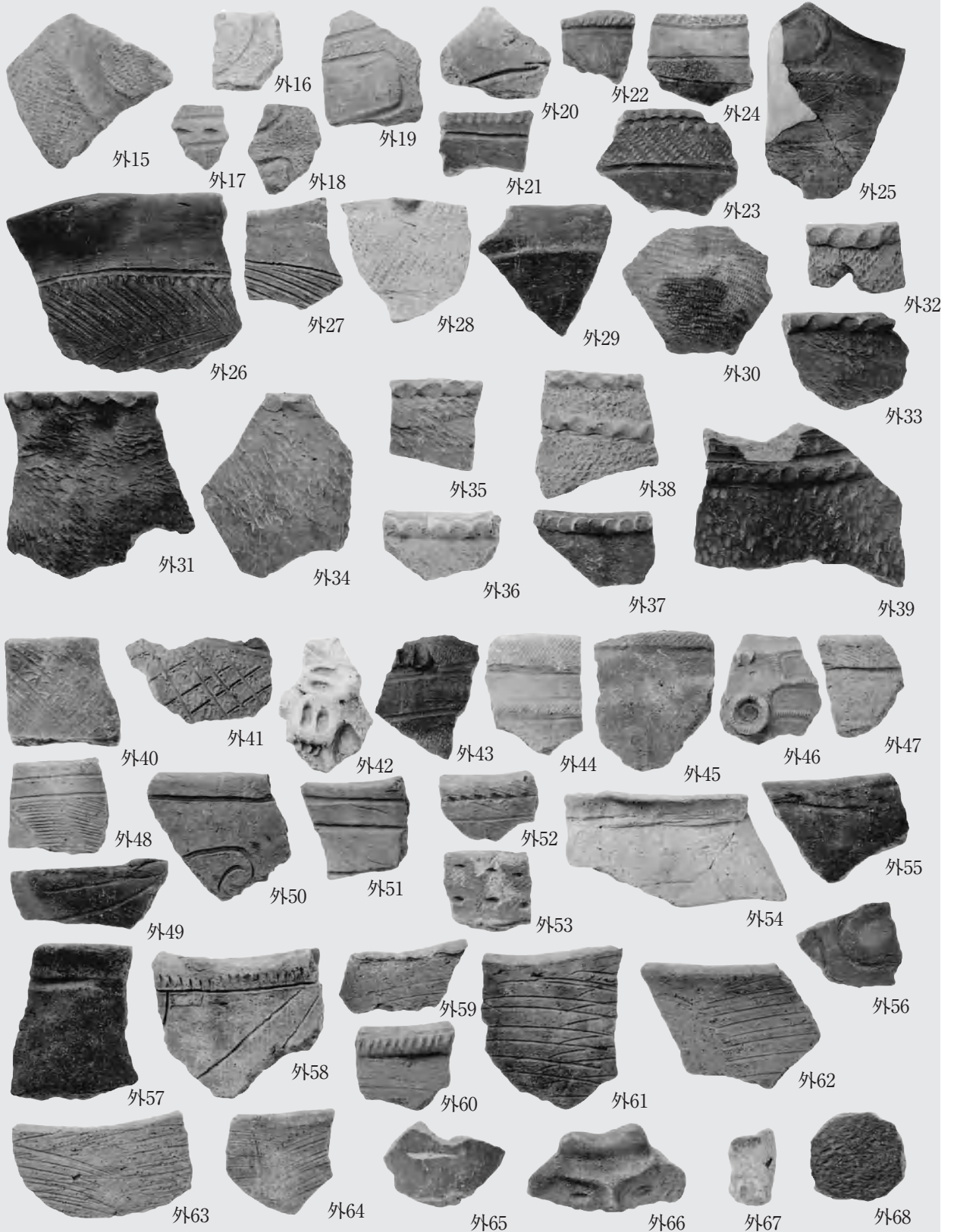
馬場遺跡 (第8地点)



馬場遺跡 (第8地点)



馬場遺跡 (第8地点)



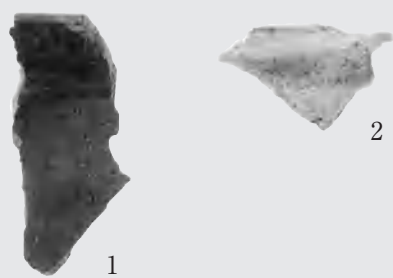
馬場遺跡 (第8地点)



大畑遺跡



打出第2遺跡 (第2地点)



報告書抄録

ふりがな	へいせい25ねんどいんざいしなないせきはつくつちようさほうこくしょ								
書名	平成25年度印西市内遺跡発掘調査報告書								
副書名									
巻次	単巻								
シリーズ名									
シリーズ番号									
編著者名	齊藤 毅								
編集機関	公益財団法人 印旛都市文化財センター								
編集機関所在地	〒285-0025 千葉県佐倉市春路1-1-4 TEL.043-484-0126								
発行年月日	2015年3月20日								
ふりがな 所収遺跡名	地点名	コード		ふりがな 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡						
なるかみやまいせき 鳴神山遺跡		122319	09-056	ちばけんいんざいしとがみあざてんのう647-6、647-7、645-2のいちぶ 千葉県印西市戸神字天王647-6、647-7、645-2の一部	35°47'23"	140°07'07"	2013年4月24日～ 2013年4月25日	49㎡/353㎡	資材置き場建設に伴う
こいどうしろいせき 古井戸後遺跡		122319	09-057	ちばけんいんざいしひらがあざすぎのき2369、2370のいちぶ 千葉県印西市平賀字杉ノ木2369、2370の一部	35°45'37"	140°14'52"	2013年5月16日	75.2㎡/440.78㎡	個人住宅建設に伴う
			09-058				2013年5月20日～ 2013年5月27日	168.6㎡	
ばばいせき 馬場遺跡	だい8ちてん 第8地点	122319	09-059	ちばけんいんざいしこばやしあざば2811-1のいちぶ 千葉県印西市小林字馬場2811-1の一部	35°49'48"	140°10'57"	2013年6月20日	44.1㎡/260.02㎡	個人住宅建設に伴う
			09-061				2013年7月9日～ 2013年7月10日	20㎡	
きとばいせき 木戸場遺跡	だい4ちてん 第4地点	122319	09-060	ちばけんいんざいしふなおあざきとば426-1のいちぶ 千葉県印西市船穂字木戸場426-1の一部	35°47'08"	140°07'37"	2013年6月26日	79.25㎡/300.01㎡	個人住宅建設に伴う
おおはたけいせき 大畑遺跡		122319	09-062	ちばけんいんざいしせとあざほうきょうどう1171、1174 千葉県印西市瀬戸字法経堂1171、1174	35°46'20"	140°12'60"	2013年10月29日	101.5㎡/997㎡	メガソーラー設置に伴う
うちでだい2いせき 打出第2遺跡	だい2ちてん 第2地点	122319	09-063	ちばけんいんざいしやまだあざひがし3286 千葉県印西市山田字東3286	35°46'9"	140°14'03"	2014年2月5日	104㎡/453㎡	メガソーラー設置に伴う
所収遺跡名	地点名	種別		主な時代	主な遺構		主な遺構		特記事項
なるかみやまいせき 鳴神山遺跡		集落跡		奈良・平安時代	奈良・平安時代 竪穴住居跡1軒		奈良・平安時代 土師器・須恵器・鉄製品		特になし
こいどうしろいせき 古井戸後遺跡		包蔵地		古墳時代、奈良・平安時代	古墳時代 竪穴住居跡4軒、奈良・平安時代 竪穴住居跡5軒・土坑1基		古墳時代 土師器・土製品、奈良・平安時代 土師器・須恵器		特になし
					古墳時代 竪穴住居跡2軒、奈良・平安時代 竪穴住居跡3軒・土坑2基		古墳時代 土師器・土製品、奈良・平安時代 土師器・須恵器・鉄製品		
ばばいせき 馬場遺跡	だい8ちてん 第8地点	集落跡		縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世	縄文時代 竪穴住居跡3軒・土坑14基、ピット34基 縄文時代 土坑1基・ピット14基		縄文時代 土器・石器・石製品		特になし
きとばいせき 木戸場遺跡	だい4ちてん 第4地点	集落跡		古墳時代、奈良・平安時代	古墳時代 竪穴住居跡2軒		古墳時代 土師器、奈良・平安時代 土師器・須恵器		特になし
おおはたけいせき 大畑遺跡		包蔵地		縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代	縄文時代 竪穴住居跡2軒、ピット5基、古墳時代 竪穴住居跡10軒		縄文時代 土器・石製品、古墳時代 土師器		特になし
うちでだい2いせき 打出第2遺跡	だい2ちてん 第2地点	包蔵地		旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世	古墳時代 竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代 竪穴住居跡2軒・土坑7基・溝1条		古墳時代 土師器、奈良・平安時代 土師器・須恵器		特になし

平成25年度 印西市内遺跡発掘調査報告書

平成27年3月17日 印刷
平成27年3月20日 発行

発行 印西市教育委員会

千葉県印西市大森2364-2

印刷 株式会社 エリート情報社[印刷出版局]

千葉県成田市東和田415-10